FOR ALL THE MOTORCYCLE & MUSIC LOVERS

TAKE FREE!

The EnshuSiast Magazine

エンシュージアスト 2017 / Vol.1

遠州の「熱中人」

EnshuSiast Profile
Right Place, Right Time
Hamamatsu Technopolis Plan
Rocken Road Grand Prix
EnshuSiast Girl
Ricky a GO GO! ...and More!

今日は朝まで語ろうか。

色々な想いの詰まったコンテナの扉を開き、火をおこせば、気の置けない仲間が集まってくる。
バイク、車、音楽・・・どんな話題でもいい。
とりとめのない話をするうちにどんどん心がほぐれていく。
隠れ家？いや、隠れてなんかいないよ、堂々と言える。ここは俺の居場所だ。

浜松初、コンテナハウスの専門会社誕生。

4×C CONTAINER
コンテナハウスの販売・プロデュース
株式会社フォーバイシー
詳しくはHPにて▶ http://www.4xc.jp
<本　社>
〒431-0101 浜松市西区雄踏町山崎3400-380
tel:053-489-3113　mail:info@4xc.jp

撮影協力：佐野モータース・Huge Motorcycles

「俺の居場所」は、¥350,000+taxから。

NAKED ネイキッド

HALF BUILD ハーフビルド

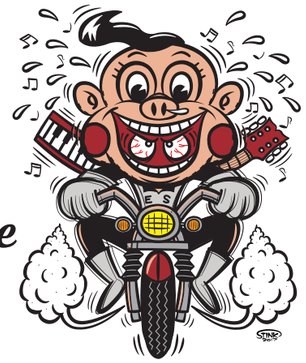
FULL BUILD フルビルド

飲食、商業施設など、確認申請に対応したコンテナハウスもご用意しています。詳細はお問い合わせください。

コンテナハウス展示場『CONTAINER BASE』

興味ある方は一度本社にお立ち寄り下さい。
または事前にお電話ください。
<053-489-3113>

The EnshuSiast Magazine



CONTENTS

EnshuSiast Profile「遠州の熱中人」…… 06
Craftsmanship of Kushitani 人生最高の一着を〜
世界の「KUSHITANI」の品質を支える職人たち …… 14
Right Place, Right Time
EnshuSiast Cafe Meeting at Edge …… 18
エンシュージアストが集まる店【バイクで行ける・Deepな店】…… 22
MOTORCYCLE LEADERS …… 24
遠州の銘品「東海楽器・Talbo」…… 26
HAMAMATSU TECHNOPOLIS NEW & REALPLAN 真・浜松テクノポリス化計画… 27
INNOVATION into the CREATION　ROLAND／AIRA …… 32
エンシュージアストが集まる店【ライブが観られる・Hotな店】…… 34
EnshuSiast Girl 〜 エンシュージアストガール …… 36
六間道路グランプリ 〜 ライラック伝説（前編）…… 37
Ricky a GO GO! 〜 リッキーで行くカレーの旅 …… 42
EnshuSiast Information …… 46
For Readers 〜 The EnshuSiast Magazine読者プレゼント …… 49
GS偏愛コラム 〜 Good Day Sunshines …… 50
夫婦エッセイ〜 Cuba Libre …… 52
コラム〜 四の五の言わずにリターンズ …… 53
From Editors 〜 編集後記のような話 …… 54
EnshuSiast Friendly Shops …… 56
コラム〜 喫茶ゆるはま …… 58

The EnshuSiast Magazine Vol.1
2017年8月25日発行
Publisher : Hiroki Yamakawa
Editor : Satoshi Ohnuma
Editorial Staff : Don U1 Sahara, Agito Ishizuka, Kousuke Ogusu, Katsumi Matsushita, Takuya Hiramatsu
Photo : Hidekazu Kurumiya, Takatoshi Kurebayashi, Agito Ishizuka, Kousuke Ogusu, Mai Hiramatsu
Text : Don U1 Sahara, Texas Ohnuma, Agito Ishizuka, Cozy Kondo, Yamasan Yamakawa
Illustration : Yotaro（Cover Illustration）, STINK SIGNS, Narushi Narushima, Agiking Ishizuka, Bob Ueda

発行：有限会社キーウエスト クリエイティブ
〒430-0928　静岡県浜松市中区板屋町101-22小川ビル3F-5　エンシュージアスト編集部
TEL : 053-450-0222　FAX : 053-450-0225　mail : enshu@key-w.com

印刷：東海電子印刷株式会社

KUSHITANI® HAMAMATSU

70 YEARS
KUSHITANI

We create the safety world.

www.kushitani.co.jp

YouTube

Enshu Siast Profile

遠州の「熱中人」

「エンシュージアスト」とは静岡県西部地域を指す「遠州」と、仕事や趣味に没頭、熱中する人を意味する「エンスージアスト」を重ね合わせた造語です。遠州、浜松地域は二輪、楽器産業をはじめ、古くから「ものづくりのまち」として栄えてきました。世界的にも名高いグローバルな企業はもちろん、町の小さな工場、工房まで、そこには先人たちのスピリットが脈々と受け継がれています。職種はさまざまでも、仕事に対するプロ意識はハンパじゃない。そしてオフの時間も全力で趣味を謳歌する。そんなエンシュージアスト（遠州の熱中人）たちの横顔を紹介します。

Photo :
Hidekazu Kurumiya, Takatoshi Kurebayashi,
Agito Ishizuka

Text :
Don U1 Sahara, Texas Ohnuma,
Agito Ishizuka, Yamasan Yamakawa,
Katsumi Matsushita

04 IronWorker

扱いにくい物ほど熱中できる

Sol y Sombra 宮本和俊

冷たく堅い鉄を、手と火を使って自在に操り、門扉や手摺りなどを作る鍛鉄工芸職人の宮本氏。「鉄は扱いにくいんです。でも火を使ったり叩いたり、自分の工夫次第で無限に変化する。だから、鉄に惹かれるんです」。終わりなき鉄の可能性を日々追求してる熱中人だ。そして、20年以上、鉄と向き合ってきた氏が最近熱中しているのが1957年製のTriumph Tiger Cub T20。「ビンテージバイクは一筋縄ではいかない。そこがまた楽しい」。扱いにくい物ほど熱中できる。それもまたエンシュージアストの共通するテーマではないだろうか。

有限会社 ソル イ ソンブラ
アイアンワークファクトリー
浜松市中区佐鳴台5-2-13　TEL/FAX:053-450-5770
HP:http://www.solysombra.jp/

03 Agriculture

地元の味だと胸を張れる美味いエシャレットを育てたい

Ascendant.Agriculture.Association 伊熊勇樹

浜松を離れ名古屋で働いていた時に、ある店で好物のエシャレットを食べた。浜松産、つまり伊熊氏にとって故郷の味を謳ったそれは「なんか凄いまずかったんですよ」。それがきっかけで、生まれ育った海沿いの町にたくさんあった畑がどうなったのか気になり、たまらず地元に戻った。そしてエシャレットの栽培について調べ、農家で修行し、荒れていた休耕地を借り上げて耕し、自ら生産者となり「美味いエシャレットをつくる」「ビジネスとして収益を上げる」ことを両立させるために仲間と会社を起こした。現在は6,000坪の畑でエシャレットを栽培している。まだ20代。だが、陽に焼けた笑顔はまぎれもなくエンシュージアストの顔だ。

株式会社A.A.A（エースリー）
浜松市南区福島町676
TEL/FAX:053-426-3567　a.a.a@a3sfarm.com

02 Importer

「フェアトレード」で現地の人の心に希望を灯したい

株式会社豆乃木 代表　杉山世子

メキシコのマヤ先住民が栽培するオーガニックな「マヤビニックコーヒー」を輸入・販売する会社をたった一人で設立した杉山さん。その原点は青年海外協力隊として赴任したアフリカで「支援」という活動に限界を感じたからであった。そんな経験を経て、彼女は同じ人間として格差のない「バリアフリーな世界」の実現を目指して起業した。創業から6年、一方的な「支援」ではなく、現地の農民が自発的に品質向上を目指すようになり、着実に結果が現れている。豆乃木の活動を「自分の人生そのもの」と言い切ることが出来る彼女もまた熱中人と呼ぶにふさわしい。

株式会社豆乃木
浜松市西区入野町9860-1
www.hagukumuhito.net

01 Percussionist

太鼓の表現力には限界がない、だから面白い

太鼓屋JALI 店主　内山哲司

浜松市北区細江町にある、ジェンベ・ダラプッカ・カホンの専門店「JALI」の店主・内山氏は、子どもの頃にマーチング、高校時代からはドラムを始め、以来30年以上打楽器を叩いている生粋の打楽器奏者だ。メンテナンスから演奏まで、楽器のポテンシャルを引き出すために、工夫し、手を掛け、熱中する。「きちっと整備してあげて、ちゃんと演奏すれば太鼓が良い音で答えてくれる。手抜きしたら全て音に現れちゃうよ」。打楽器奏者の言葉には説得力がある。「太鼓とは多分一生付き合ってくだろうね」。打楽器に魅了され続けている熱中人は「まだまだ終わらないよ」と笑う。

太鼓屋JALI
浜松市北区細江町気賀160-1　TEL/FAX:053-523-2986
店舗営業:日曜日　13:00~19:00（日曜日以外は要予約）
HP:http://jali-djembe.biz/　ブログ:http://tet.jali.biz/

05 Chef

料理を作り、もてなすことが大好きだった

ROBANOMIMI 店主 伊藤慎悟

「例えば、冷蔵庫の中にある食材で何が作れるか考える。色々工夫して美味しくなるように手間を掛けて作る。それを美味しいって言ってくれたら嬉しいじゃん。」伊藤氏の料理の原点は幼少時にある。共働きだった両親の代わりに兄弟に作って食べさせたのが始まりだ。イタリアンやバリ料理の店で修行の後、独立するときにタジンに出会った。タジン鍋の魅力に取り憑かれてモロッコまで修行に行った。思い立ったらすぐ動く行動力も熱中人の証。愛車はW650とROYAL ENFIELD 350。料理もバイクも自分の手で作り上げてく楽しさがあるから熱中できる。

リラクシン多国籍レストラン&カフェ ROBA NO MIMI
浜松市中区萩丘3-9-30　TEL:053-471-0022
LUNCH/12:00~15:00 DINNER/18:00~23:00
定休日:月曜日（祝日は営業）
http://robamimi.jp/

06 Silver Artist

40年同じ場所で銀と向き合う日々

Handmade silver PLATERO　市川平次

浜松の肴町に店を開いて40年、日々銀という素材に向き合ってきた。ハンドメイドのシルバーアクセサリーは作り手の個性と身につける人の個性が共鳴してはじめて存在意義を持つ。身につけ、使い込むことでそれは人生さえも滲ませる。「ここで作ったものを気に入って買ってくれる人っていうのは、気持ちが通じる人が多い」だから自然と長くつきあうことが多いという。古いハーレーに魅せられて始まったバイク遍歴は、ナックルからついにはインディアンにまで行き着き、現在はYAMAHA TX650を足にして、天気のいい日には'46年のインディアンチーフに火を入れのんびり流す。そして今日も愛犬が足元で遊ぶ工房で銀と向き合う。

有限会社プラテロ
浜松市中区肴町314-20　TEL/FAX:053-456-2957
http://platero.jp

07 Aromatherapy

アロマと薬剤師。その役割を学び、考え、広めたい

花織のうた 薬剤師　山口詩織

薬剤師の資格を持つ彼女。それを活かしながら調剤･投薬とは違った心と体の健康のあり方を常に模索している。「自分自身、体を壊してどん底の時にアロマに出会ったんです」。勉強してきた化学式だけが「くすり」ではないと感じ、治すことより整えることを意識しだした。エッセンシャルオイルスタイリストの資格を取り、ワークショップを行う中にもアクセサリーづくりやフラワークラフトといった要素を取り入れるという工夫にも余念がない。「貪欲に学び、経験し、それを求められる所へ届けたい」まだあどけなさの残る笑顔とはうらはらに、「自分を活かせる仕事、人を幸せにできる仕事に熱中したい」という強い意志を心に秘めている。

メディカルアロマサロン「花織のうた」
http://kaori-no-uta2015.jimdo.com/
kaori-no-uta5015@gmail.com

08 Painter

HOTRODカルチャーに魅せられて

STINK SIGNS　坂口育由

街中の古着屋の看板やバーガーショップのウィンドゥに描かれたサインペイント。どこか懐かしく、ちょっとシニカルなタッチが彼の持ち味だ。子供の頃から憧れ続ける古き良きアメリカと授業中の落書きが彼のルーツ。Lowbrow ArtやHOTROD、KUSTOMカルチャーに触れる中、自然な流れでイラストやサインペイントを描くようになった。「他人と同じは嫌だし、自分の個性とユーモアを積極的に作品に込めたい。それが人々の笑顔に繋がれば何よりも嬉しい」と彼は言う。そんな彼の愛車は1950年型FORD。通称「SHOEBOX」。あえて不動車を引き取り、年月を掛けて路上復帰させた。妥協しないこだわりと独自のスタイルが彼の原動力かも知れない。

STINK SIGNS
浜松市南区福島町676　RestlessApartment
www.stinksigns.com
stinksigns@gmail.com

12 Musician

浜松に来たからこそ培われた「プロ意識」

ギタリスト　石川秀明

「気がついたら浜松に一番長く住んでるね」。東京でスタジオミュージシャンの仕事をしていた大分出身のギター少年が、楽器メーカーに拾われて浜松に来て二十年が過ぎていた。「当時より、今の方がむしろプロ意識が高いかも」。数々のバンド活動を経て、浜松では指折りのギタリストとして認知されている石川氏。体調を崩してメジャー系の音楽活動は休みにしたものの、最近はまたイベントを運営したり、デュオユニットで活動したりと精力的だ。勤務先で新しいギターができると試奏を頼まれるという噂。「昨日もちょっと弾いてみたよ」。どうやら本当の話らしい。

hide ishikawa／石川秀明
official website “しょぼしょぼ”　http://theblackbass.com/
http://www.youtube.com/user/hydepee/

11 Photographer

当たり前の感覚で、当たり前じゃない画を生み出す

Wonderful Photo Studio 榑林武俊

写真屋の長男として生まれた榑林氏は自然と写真家の道を選んだ。二十歳の時の戦場取材で「コミュニケーションの大切さ」を痛感した榑林氏は、被写体と淡々と向き合うのではなく、関わる人々とカメラを通じて深くコミュニケーションを取る物作りを目指している。「良いものを撮るためには、まずは現場作りから。現場が暖まったらその流れで撮ります。自分の意識として、撮ることは普段の生活と同じ感覚にしています。」当たり前の感覚でいながら、当たり前じゃない画を生み出す。それも熱中人であればこそだ。

Wonderful Photo Studio
浜松市南区卸本町28　TEL/FAX:0538-24-8315
https://www.facebook.com/wonderfulphotostudio/

10 Optometrist

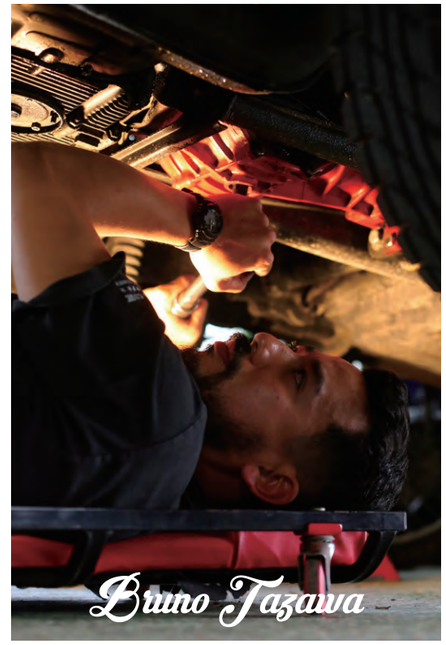
熱い思いが身体を動かす

メガネ天竜堂 代表 内山淳

アイウェア専門ショップのオーナーとして、そのものづくりの姿勢に共感していたオークリーの社長に会いたい。なにもツテは無かったが「バイクでアメリカ大陸を横断して行けば会ってくれるだろう」とアメリカに渡る。帰国後、そのスピリットと大陸横断の経験をもとに日本人バイカーのための究極のサングラスづくりに取り組む。その結実がバイカーに絶大な支持を得る「イノベーター」だ。現在は「日本一の検眼師」を目指している。「きちんと見えることは、健康寿命を延ばす。これからの社会には必要です」。その熱い思いはこれからも視界良好のようだ。

有限会社 天竜堂
浜松市浜北区小松684-2　TEL:053-587-2020
http://www.tenryu-do.com

09 VW Builder



ワーゲンカスタムは自分のライフワーク

VW CUSTOM NOWAX主宰　ブルノ田沢

ワーゲンをこよなく愛するブルノ氏の愛車は1974年製。エンジンは1,835ccに。キャブはシングルウェーバー。一番の自慢はブラジルのVWスペシャリストとの出会いで手に入れた5速ミッション。彼は空冷ワーゲン乗りが憧れるこの5速ミッションを日本でも広めたいと日々奮闘している。なぜワーゲンにこだわるか尋ねると「子どもの頃から父のワーゲンが自慢だった。オリジナルペイントで有名になり、5回も盗難にあった。その度に戻ってきたけれど、6回目は無いって父が売ってしまった。だから大人になってワーゲンに乗るのは自分の夢だったんだ。自分のワーゲンカスタムにゴールは無いよ。だって一生飽きないでカスタムし続けるからね。」

VOLKSWAGEN CUSTOM／NOWAX
nowax-vw.com
sublimewave@hotmail.com

人生最高の一着を。

世界の「KUSHITANI」の品質を支える職人たち。

Katsumi Muramatsu

Craftsmanship of Kushitani

取材協力 株式会社クシタニ
TEL.053-441-2516 www.kushitani.co.jp

オートバイの聖地から生まれた世界ブランド

「クシタニ」と聞いて、伝統の「富士山マーク」を思い浮かべないライダーはいないであろう。遠州浜松に本社を構えるバイクウェアの老舗メーカーである。世界ブランドとして国内外のプロライダーをユーザーに持つ同社は、２０１７年に創業70年を迎えた。

今回、「遠州の熱中人」を紹介するにあたり、工房を拝見しながら、ひとりの技術者にお話しを伺うことができた。彼の言葉を借りて、クシタニのものづくりとそれを支える職人について紹介していきたいと思う。

櫛谷商店から「KUSHITANI」へ。

クシタニの起源は、戦後間もない頃、櫛谷夫妻が始めた革製品の製造販売店『櫛谷商店』である。その丁寧で上質な仕上がりは、評判を呼び、鈴木自動車（現スズキ㈱）から「バイクのレーサーが着る革ツナギはできないか？」という思いもかけぬオファーを受けるに至る。これがきっかけとなって、クシタニは、バイク用ウェア製造に深く関わっていったのである。夫妻がレーシングスーツ作りという未知の世界に挑んだのは「できない」とは言わない遠州人の気質がそうさせたのであろう。その妥協のない縫製や品質からクシタニの革ツナギは海外でも愛用されるようになり、櫛谷稔子社長（当時）はケビン・シュワンツやワイン・ガードナーといった世界のトップライダーから「日本のママ」と慕われるまでになっていくのである。

究極の熱中人は、作業台のレーサー

『櫛谷商店』創業から70年、時代は変わろうとも、クシタニの製品が現在もオートメーションではなく、人の手によって作られていることが同社の工房の様子に見てとれる。所狭しと専用のミシン

1986
Wayne Gardner

1986
Kevin Schwantz

1997
Norifumi 'Norick' Abe

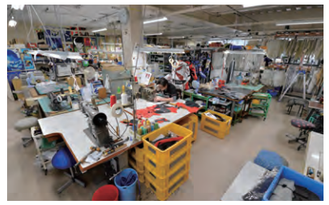
クシタニのマークが示すもの
「クシタニ」が革ツナギを作り始めた1950年代以降、日本のバイクメーカーは挑戦の舞台を世界GPへと移して行った。ライダーたちが身を包んだレーシングスーツには日本を象徴する「富士山」のマークが縫い付けられていた。それは世界に打って出るという「気概」の現れであり、日本を代表して戦うライダーの「誇り」でもあった。

や型紙、糸などが並び、職人たちが各工程を分担する。その一角でミシンに向かう村松氏はクシタニに入社して16年のベテラン縫製職人。幼い頃から両親の趣味のクラフト工作を見て育ち、早くからものづくりの楽しさに目覚めたという。衣料業界で販売や修理の経験を重ね、自身の技量を最大限に生かせる場所として最終的にたどり着いたのが、現在のポジションである。

慣れた手つきでウェアのパーツを手際よく縫い合わせていく技術は実に見事であるが、それでも、1日に1着が仕上がるかどうか、ということだ。「世界のクシタニ」の縫製を任される立場、さぞかし気合いを込めて一つ一つ作業をこなしているに違いないと思い、村松氏に尋ねると、答えは意外。「縫製の仕事はツナギ製作のごく一部にしかすぎません。設計図のないプラモデルを作るような感覚といったらわかりますかね。出来るだけ感情を込めすぎないように気をつけています。」なるほど、高い精度を保ち、均一に何時間もの作業を続けていくのだから、想いが強過ぎて感情の起伏が大きくなると品質にばらつきが出てしまう。そう思うと「心は熱く、手は涼しく」という言葉が浮かんでくる。熟練の音楽家や寿司職人がスイスイと、ともすれば、あっさりすぎるほどの所作の反面、放たれる音色や口に含んだ食感に感動を覚えるのに似ている。心の底に情熱を静かに横たえて、研ぎすまされた技を永遠に続くかのごとく繰りだしていく。これこそが、究極の熱中人だけが到達できる域なのであろう。と同時に、村松氏がミシンを操り、直線やカーブに合わせて縦横無尽に正確なステッチを描いていく様は、クシタニのウェアを纏った1人のレーサーがマシンを操り、ストレートやヘアピンを疾走する姿と重なっていく。

「できない」とは言わない、静かな挑戦

仕事は1人の職人の技術やスピードだけではままならない。実際、クシタニは1年分のオーダーを抱えている。それに加えて、レース期間中のライダーから依頼されるメンテナンスや「新しく買ったほうが明らかに良いのに」と思えるほど使い古したウェア修理依頼などの難題も舞い込む。しかし、村松さんをはじめ、クシタニの職人は決して「できない」とは言わない。「1人の技術だけでは限界がありますが、同じ職人同士が気持ちを理解し合い、いい雰囲気を保ちながら、連携し、それぞれの技術を最大限に生かして効率よく精度の高い製品をお客さまに提供することができる。それが、クシタニの伝統だと思います。」静かな挑戦、『クシタニイズム』は、70年の間、確実に受け継がれていた。



プロフィール／村松勝美：1971年生まれ、富士市出身。2000年入社、製造部縫製担当。日課はジョギング、早めに出勤して自身の趣味としてのウェアやレーシングスーツのミニチュア製作を楽しむという根っからの職人。愛車は、モトグッチ V7 II STORNELLO（写真）、スズキハスラーTS250、JEEP パトリオット。

サーキットからのフィードバックを随所に盛り込んだハイエンドモデルのレザースーツはフッ素加工を施した「プロトコアレザー」を採用。牛革の内部にまで撥水加工されていることで、雨や汗に強く、フィット感や運動性が大きく向上している。

最高時速340km。極限の世界で戦うライダーが求めるのは絶対的な安全性能。クシタニのレーシングスーツに身を包んだライダーには、不安要素を微塵も感じさせない安心感と信頼性が伝わっている。

ライディングウェアにミリタリーテイストを加えたロングジャケットなど、バイクを降りてから街でも違和感のないスタイルでありながら、防風性やプロテクション性を高次元で両立させている。

革という一つとして同じものがない自然の素材を使いながらも、初めて袖を通した時からでもわかる「品質の良さ」。これを全ての製品において実現しているのがクシタニ・クォリティー。

近年ますます過激さを増すレーサーたちのライディングフォーム。レーシングスーツにもこれまでに無い運動性を求められ、もはやスポーツウェアと呼べるまでのストレッチ性を実現している。

Craftsmanship of Kushitani.

やっぱり
ショベルが
好きですね。

バイク
どこに
停めますか？

お、珍しい
バイクだねぇ。

しかし
よくこれだけ
集まったね。

Right Place, Right Time.

Enshu Siast Cafe Meeting at Edge.

2017年6月某日、浜松市南区にオープンしたモーターサイクルのサービスショップ「EDGE」にて第一回エンシュージアスト・カフェミーティングが行われました。梅雨入りしたにも関わらず、遠州地方は晴天が続き、この日も絶好のバイク日和となりました。集まったバイクは総勢30台。外車、国産車、メーカー、年式、排気量、スタイル問わず、オールジャンルのバイカーたちのコミュニケーションの場となりました。

南区卸本町にオープンしたばかりのバイクのパーツ&メンテナンスショップ「EDGE」（本誌P.41参照）には、口コミだけの情報にも関わらず、センスの良いバイク乗りが大勢集まった。1台また1台と乗り付けて、やがてその中の1台を囲んで自然とバイク談義に花が咲く。今日が初対面という人もジャンルは違えど「バイク」という共通言語のおかげで、和やかなムードの中、お互いの親睦を深め合っている。「バイクっていいな」と心から思える瞬間だ。

Right Place, Right Time.

Enshu Siast Cafe Meeting at Edge.

カフェミーティングに欠かせないケータリングを引き受けてくれたのは、自身も根っからのバイク好きであるビストロ・ヒルマンの佐藤シェフ。晴天の下でいただく自家製レモネードと特製のオムライス。やはり楽しい時間と美味い飯は自然と人を笑顔にさせる。そんなひとときを過ごした後、銘々のライダー達は思い思いに次の目的地へと走っていく。ライトな場所のライトな時間。これからもぜひ続けていきたい。

浜松卸商団地内複合施設 GSビル

浜松市南区卸本町28

正式名称は「Good Day Sunshine Building」。一階は自転車店・Green Cog、GSバーガー、本誌でも活躍する榑林カメラマンのWonderful Photo Studioがあり、二階はダンススタジオになっている。建物北のスペースにも最近新たに定食屋、珈琲の焙煎店ができ、実に多彩な顔を持つ建物だ。集まる面々も個性派揃い。

Green Cog（グリーン・コグ）

TEL: 053-441-4250 FAX: 053-533-3327
営業時間11:00~20:00 定休日・木曜日
www.green-cog.com/

自転車のあるライフスタイルをお手伝い。自転車の販売・修理はもちろん、アウトドアグッズも取り揃えている。

GS BURGER

TEL:090-8544-5356
営業時間11:00~20:00 定休日・木曜日

定番のハンバーガーのほか、さばサンド、モチコチキンサンド、夏季限定ナマズサルサバーガーなどオリジナルメニューも充実。
テイクアウトOK。

GSダンススタジオ

http://gsdance.hamazo.tv

ベリーダンス、クラッシックバレエ、アフリカンダンス、ヨガ、サンバといった多様なジャンルのクラスがあり、各講師がスケジュールを組んでそれぞれのクラスを運営している。各クラスのスケジュールは上記Hamazoブログを参照。

雑貨・古道具 JUNKMASTER

袋井市下山梨553番地1 TEL:0538-84-7996
営業時間:10:00~18:00頃 定休日:月曜日

古いバイクや農機具・古道具が所狭しと並ぶ店内。オーナーは自分の足で田舎を回り、農家の納屋や倉庫で忘れ去られていた古い機械やバイクを見つけては仲間内で楽しみながら修理している。昔からの古道具屋の精神を今も大切にしている。

Cafe&Bar CLOVER13

浜松市北区引佐町東黒田53-2 TEL:090-4861-4459
11:30~22:00 定休日:月・火曜日 https://www.kamoe-coffee.com/

引佐の自然の中にオープンしたダイナー風のカフェ。浜松いなさICから近くて、ツーリングの行き帰りに寄れる。席の窓から愛車を眺めながら、ゆっくり珈琲を飲めるのもライダーには嬉しい。地元の野菜を使った"季節の野菜カレー"が絶品。

カジュアルフレンチ ビストロヒルマン

浜松市中区板屋町101-1 TEL:053-543-5000
18:00~23:00 定休日:月曜日・日曜日

バイク・クルマに精通したマスター佐藤氏のもとに、趣味人たちが集まってくる。店内の装飾もシェフの趣味とセンスで、居心地の良い空間を作り出す。フレンチ初心者でもおおよその予算を伝えれば、美味しい旬の食材を最高の形で提供してくれる。

ビンテージバイク&カフェ くれいじーママ

浜松市中区和合町220-935 TEL:053-473-7955
10:00~21:00 定休日:火曜日

浜松におけるライダースカフェの元祖的喫茶店。80年代の喫茶店全盛期の雰囲気がそのまま残っている店内には、バイク好きのマスターが所有する古き良き時代のバイクコレクションが展示してある。手作りにこだわったママの料理は愛情がたっぷり。

ライダースカフェ はまなこ

浜松市西区舞阪町弁天島2739-1 TEL:053-596-3770
営業日:水・土・日曜日 8:00~17:00

今年9月に1周年を迎える浜名湖の新名所。「みんなが楽しんで寄ってくれるのが最高だよ」という気さくなマスターご夫妻の人柄に誘われて、週末には名古屋や横浜からもライダーたちが集まってくる。マスターが気に入って集めた旧車を眺めて飲むコーヒーは至福の一杯だ。

リラクシン多国籍レストラン&カフェ ROBA NO MIMI

浜松市中区萩丘3-9-30 TEL:053-471-0022
LUNCH/12:00~15:00 DINNER/18:00~23:00 定休日:月曜日(祝日は営業)http://robamimi.jp/

多国籍な雰囲気の店内で、特製チャイと水煙草で日常の喧騒を忘れてのんびりリラックス出来る非日常カフェ。浜松では珍しいモロッコのタジン鍋を使った料理は、日本人の口に合うやさしい味付け。バイク好きのオーナーとバイク談義に花を咲かせるのも楽しい。

Right Place, Right Time.

バイクで行ける、エンシュージアストが集まるDeepな店。

selectshop HORSESHOE BEND

浜松市北区細江町気賀1769-1 TEL:053-525-9985
11:00~19:00 定休日:水曜日 http://www.horseshoe-bend.jp

ラングリッツレザー、WESCO、ヴィンテージハーレーなど本物を求める大人のためのセレクトショップ。重厚な扉の内側には、ダンディでセンス良いオーナーの確かな目で集められたアイテムが整然と並ぶ。浜名湖ツーリングの途中にふらっと立ち寄れる立地の良さも◎。

古着屋 Custom Fever

浜松市中区田町326-17三展ビル1F TEL:053-455-6755
13:00~20:00(平日)／12:00~20:00(土日) 定休日:水曜日 https://ameblo.jp/customfever/

オーナー自ら現地で買い付けた「ユルく、ダサかっこいい」西海岸カルチャーの空気をそのまま持ち込んだ古着を提案。レギュラーからビンテージまで豊富に揃えている。通り向いの「Precious Junk」は姉妹店。INSTAGRAM：customfever_precious_junk/

DINER VEGAS

浜松市東区大島町922 TEL:053-545-4337
11:30~22:00(ラストオーダー21:30)定休日:火曜日 https://www.dinervegas.com

100%ビーフ&手捏ねパテのハンバーガーが自慢のアメリカンダイナー。店内は白を基調とした明るい60年代のアメリカ風インテリア。ギターリペア職人でもある店主のキャプテン・ジョージのこだわりのギターも展示。駐車スペースもたっぷりでミーティングなどでの利用もOK。

コーヒー ブラックバード

浜松市西区深萩町304−225 TEL:053-486-0365
12:00~19:00 定休日:水曜日・木曜日

ホンダの名エンジニアであった山中氏が、ご自身で自宅の納屋を改装して開いたカフェ。CB900F、CB1100R、NRといった歴代フラッグシップを開発したマスターとの会話と、丁寧に淹れてくれる美味しいコーヒーを求め、全国から多くのライダー達が足を運ぶ。

Motorcycle Leaders

モーターサイクル・リーダーズ

エンシュージアストがイチオシする
バイクのまち浜松を代表するショップスタッフに
今、旬のバイカースタイルについて語ってもらった。

各ショップの情報は
「EnshuSiast Friendly Shop」(P.56)でチェック！

スタイルテーマ
朝出て昼過ぎに帰ってくる気軽さと安全性がポイント

スズキワールド浜松
廣川瑠也さん

色々なツーリングスポットや道の駅などで、同年代から年上の人まで、バイクを通じてコミュニケーションを取ることができ、仲間が増えていくのが楽しみの一つかなと思います。ぜひバイクに乗って、感じてみて欲しいです。私のオススメの1台はズバリGSX-R1000R。1000cc、202馬力というスペックながら、今までのリッターSSにはなかった扱いやすさにはまりました（実は今納車待ちです）。

Tops:DAINESE G. SUPER SPEED TEX

スタイルテーマ
夏でも涼しく安全に！

ホンダドリーム浜松
佐竹智彦さん

今年は多くの新機種が発表されましたが、イチオシはレブル250と500。キビキビ単気筒の250、余力ある2気筒の500で車格は同じ。カジュアルにもオシャレにも乗れて足付きもよく男女問わずおすすめです。レブル以外にも新車、中古車おすすめがたくさんあります。用品にもこだわってバイクライフを楽しんでいただきたいですね。「自分に合った1台」を見つけるお手伝いをします。

Tops:HONDA RIDING GEARエアスルーUVジャケット

スタイルテーマ
敢えてのレーシングスーツ！

オートプラザドリーム
阿部宗一郎さん

今、原付二種が熱いです！ホンダGROMは、お好みに合わせて様々なカスタムが出来るのでオススメです。サーキットを走ってみても楽しいバイクですよ。ワンメイクレースも開催されていて、エントリーモデルとしても最適です。ウチは20代の若いスタッフや女性スタッフがいて、どなたでも気軽に寄っていただけます。カスタムはもちろん保険・ガラスコーティングなどもご相談ください。ツーリング等のイベントも開催していますので、お茶を飲みに来るような感覚でどうぞ！

Racing suit:HYODO RACING PRO ALTIS

EnshuSiast
SNAPSHOT

スタイルテーマ
バイクもファッションもカフェレーサースタイルでキマリ

YSP浜松
鈴木慎也さん

自分の愛車でもある、XSR900がイチオシです。水冷直列3気筒DOHC4バルブエンジン搭載で、圧倒的なパワーと湧き出るようなトルク感です。また走行状況や好みに応じて選べる3種類の走行モードで、シーンごとに最適な走りを引き出してくれます。初心者の方にも安心して乗っていただける1台だと思います。お客様のバイクライフを私が今以上に楽しく出来るように色々提案していきたいですね。ぜひ遊びに来てください。

Tops:ACE CAFE LONDONジャケット【ROCKERS Collection】

スタイルテーマ
普段着感覚で日常に溶け込む

ハーレーダビッドソン浜松
姜 承信（カン スンシン）さん

ジャケットを脱げば、どこに行っても馴染むようなスタイルで乗っています。ハーレーはバイクに乗る自分を好みのスタイルで演出できる小物からウェアまで充実してますよ。オススメの1台はXL1200X フォーティー・エイト。多様なカスタムでオンリーワンのバイクが手に入ります。男なら人生一度はハーレーに乗ってみてください。

Tops:Harley-Davidson Men's Tactful Riding Jacket

スタイルテーマ
通勤・街乗りでも快適で楽なスタイル

川島モータース本店
袴田裕士さん

試乗車として使っていたMT-09 TRACERに惚れ込んで購入しました。一番のお気に入りはデザインです。ポジションも自然で、元気が良いエンジンで乗っていて楽しくなるバイクです。普段の通勤にも使ってますし、取り回しが良いので、「スニーカー感覚」でつきあえる頼もしい相棒です！私は整備部門でお客様の大切な愛車を責任もってお預かりしています。当店は国内4メーカーの新車販売はもちろん、見て楽しい、話して楽しい、寄って心に残る店づくりを目指しています。お気軽にお立ち寄りください。

Tops:SIMPSON Nylon Jacket

スタイルテーマ
カジュアルな街着にぴったりなイタリアンデザイン

DUCATI浜松
鈴木啓之郎さん

DUCATIというと赤いレーサースタイルを思う浮かべる方も多いですが、Scramblerシリーズは気軽に乗れて、走らせてもとても楽しいバイクです。アパレルもDUCATI、特にScramblerシリーズはデザイン性に優れ、カジュアルなイタリアンデザインをお楽しみいただけます。バイクの楽しさを一人でも多くの方に味わっていただきたいです。安全で楽しいバイクライフを一緒に楽しみましょう。

Tops:URBAN RAID ファブリックジャケット

スタイルテーマ
近場を気軽に

ペペモーターサイクルス
鳥山浩二郎さん

ネットやSNSの普及で、仲間を探したり、行きたいスポットの情報を簡単に集められたり、オートバイを通じた楽しみ方も増えてきました。そんなバイクライフを一緒に楽しんだりお手伝いするのが大好きです。今気になる1台はYAMAHA MT-07。純正での完成度が高く、性別・世代を超えて楽しめ、カスタムベースとしても興味ありです。

Tops:DEGNER T-shirt:analog Bottoms:Dickies

遠州の銘品

東海楽器製造株式会社
1983年発表　タルボ

Talbo

『タルボ』は1983年、東海楽器が当時の技術とアイデアを注ぎ込んで完成させたオリジナルエレキギターである。その名のとおり世界初のメタルボディは、ロングサスティーン、ローノイズ、独特のクリアサウンドを生みだした。しかし、あまりの独創性ゆえセールス面では振るわずにいったん生産が止まるが、GLAYのギタリスト、HISASHIがトレードマークとして使用したことにより、見事に復活。誕生から実に15年後のことであった。そして、今も『タルボ』は遠州のクラフトマンとアーティストたちの気概を奏でながら進化を続けている。

東海楽器製造株式会社
浜松市南区遠州浜2-26-10
http://www1.odn.ne.jp/tokaigakki/

浜松だからこそテクノなのだ

テクノポリス（和製英語：Technopolis）は、高度技術集積都市、およびそれを実現するための計画。
（Wikipediaより）
確かに浜松には「テクノ」の名をつけた工業地帯が複数あり、浜松発の技術・製品を世界に発信している。
だが、音楽好きにとって「テクノ」は違うニュアンスを持つ言葉。
関係ないとは知りながら、浜松のいたるところで目にする「テクノ」の文字に
未来的な音と街並を想像しワクワクした覚えはないだろうか？
「テクノ行き」のバスが走り、世界に名だたる楽器メーカーがあり、音楽・楽器の街を標榜する浜松。
技術・音楽・文化が融合した真のテクノポリスになれるのはこの街しかないはずだ。

何故テクノがテーマ？

タイガーマックス（以下TM）：本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。さて、今日このメンバーでお話しいただきたいテーマはズバリ「テクノミュージック」です。

チャンジ：私は就職で浜松に来た口ですが、浜松は「テクノポリス宣言都市」だっていうし、「テクノ行き」ってバスを見た日には胸が高鳴りましたね。

アジア：まあ、実際は音楽とは無関係だけどね（笑）

チグリス：浜松はヤマハ、河合楽器、ローランドと電子楽器をつくる大手メーカーがある街だし、かのＹＭＯもその機材を使ってましたよね。

チャンジ：何を隠そうTR-808、JUPITER-8、DTM、MIDIはすべてローランド創業者・梯さん（故人）がこの世に出したものでございます。

TM：さすが元従業員（笑）。ほらそう考えると結構関係あるでしょ？

チャンジ：友達が居なかったんで（笑）ひとりで機材組んでシンセサイザー演ってましたねー。そこがステージに上がるようになったスタート。テクノを電子音楽でひとくくりにするのにはちょっと抵抗あるかな。まだ単音しか出ないような電子楽器で奏でられてた前衛音楽、実験音楽をちゃんと曲にしてポピュラーにしたのが「クラフトワーク」。よりポップな曲作りでテクノってジャンルをメジャーにしたのが「ＹＭＯ」だと思うんですよ。

アジア：俺はね、ピコピコがテクノだと思ってるの。こう、音がピコピコしてるっていうかさ。

TM：わかるようなわからんような（笑）。

パトリシアはわかる？

パトリシア（以下パト）：・・・全然（笑）。テクノって言葉は聞いたことあるけど、どんなって言うとわからないです。

チグリス：二十代のパトちゃんにはわからんかー。今だとパフュームとかきゃりーぱみゅぱみゅみたいな感じの・・・。

アジア：ほら、ピコピコじゃんか（笑）。

パト：あー。そういうのならなんとなくわかります。

チグリス：私はテクノって音だけでなく、ファッションまで含めた一連のムーブメントだととらえてます。過去のテクノブームの時にはテクノカットって髪型がはやったり、ファッションもサイバーなテイストの銀色のピカピカがテクノのイメージだったり。

アジア：ピコピコの次はピカピカですか？ピコピコピカピカ（笑）。

どんな音楽がテクノ？

TM：みなさん今現在もそれぞれのアプローチで音楽活動をしているわけですが、過去のテクノブームから影響を受けた部分はありますか？またどんな音楽がテクノだと思いますか？

チャンジ：友達が居なかったんで（笑）ひとりではテクノは意識してないとはいえ、ウチのステージはピカピカです・・・みんなにテクノって言われるわけだ（笑）。

チャンジ：ＹＭＯの細野晴臣氏いわく「テクノとはサウンドではない。意識である」とのことですからね、いろんな感じ方があっていいんじゃないですか？そもそも音楽のジャンル分けってこと自体が・・・**TM：あ、話が面倒な方向に行きそうなので別の話題に（笑）**

クラブシーンとテクノ

TM：アジアはずっとＤＪとして音楽に関わってきてるよね？

アジア：さすがに昭和のディスコブームでＹＭＯがかかってる頃はまだ子供だったけどね（笑）。でも、時代ごとに常に先端のっていうか技術を駆使した音づくりってあって、クラブミュージックとしてのテクノの進化形のひとつがEDM（Electronic Dance Musicの略）だね。なんか、グルーブよりも技術が先に行ってる感じ。

チグリス：クラブサウンドとは少し違うのかもしれないけれど、パフュームやきゃりぱみゅもEDM的な音づくりがされてますよね。いわゆる中田サウンド。

アジア：いや、割と共通点あるよ。ピコピコの。

パト：やっぱりピコピコなんですね（笑）。

アジア：実はEDMも中田サウンドって言われる楽曲もBPMが同じなんだよね。ピコピコのテンポっていうか速度がさ。

チグリス：おお、Beats Per Minuteつまり、一分あたりの拍数ですよね。私も曲つくる時は意識してるんです。

アジア：EDMもパフュームもきゃりぱみゅもBPMはほぼ128あたり。ＹＭＯのライディーンは140とちょっと速めだけど、現代のテクノのBPMは128あたりって認識でいいと思う。

チグリス：私の作る曲もほぼその辺りのピコピコ感です。なんかピコピコに説得力が出てきましたね（笑）。

アジア：よくBPMを心拍数に例えられるんだけど、普通にしている時、歩いてる時、走ってる時で心臓の鼓動って変わるじゃん？それに呼応する曲のテンポっていうのがあって、例えば椅子に座ってのんびりしたい時はBPMの小さいゆったりした曲が心地いいし、ダンスにしてもジャンルによってカラダが欲するテンポって変わってくるんだよ。

Tigris Gokai（チグリス）

浜松摩訶不思議空間演出楽団「MESOPOTAMIA」主宰。精力的にライブスケジュールをこなす会社員。本人に自覚はないらしいが、デジタル的仕掛を使ったステージパフォーマンスはとってもテクノ。定期的にライブハウスでのイベントを主催し、多くの地元ミュージシャンと交流を持つ。動画やライブ情報は以下から。
http://www.hamamatsu-music.net/artist/4

光がくるくる回る照明、レーザー光線、シャボン玉といった飛び道具でステージを演出するMESOPOTAMIA。打ち込みの音とギターの生演奏が作り出す音は迫力あり。メンバーは流動的で、それぞれが川の名前をステージネームにしている。

Tiger Max&Patrisia

今回の進行役の紅い虎・タイガーマックス。唄う虎としてアニソンユニット「PinkDiamond」に参加する。アシスタントはポルトガル語がペラペラというパトリシア。対談の場は初参加で音楽活動は未経験。対談を通じてチグリス氏からMESOPOTAMIAのメンバーの証である川の名前・ステージネーム「アマゾン」をもらう。

DJ-ASIA（アジア）

アミューズ初のDJとしてデビュー、数々の大物ミュージシャンと共演し、REMIXを手がけた経験のある実はちょっと凄い人。古今東西のディスコ・クラブシーンに通じ、浜松に戻ってからも自らのDJスタイルの確立に余念がない。つい最近も新しい機材を購入、毎週末どこかしらの店で出張DJをしている。DJリボンの別名でユルカワテクノユニット「にゃんぷりーと」としても活動中。

1995年、東京で活躍中の頃。「タンテ横起き、ミキサー横長、超貴重」とは本人談。デジタル音源のみのシステムからアナログ音源もプレイできる機材へ。試行錯誤は未だ続く。

Chang Jiang（チャンジ）

テクノからフュージョン、ロック、Jポップまでさまざまなジャンルのバンドでさまざまな楽器をこなす。今も10のユニットで活動中のマルチプレーヤー。その経験からのうんちくはかなりの説得力。R社でビジュアル機器の開発に携わり、現在フリーランス。機材オタクが高じて音響機器を自腹で揃え、ミュージシャンのライブサポートにも力を入れている。

30数年前ひとりでステージに上がっていた頃。
ちなみに当時の機材は、キーボード Roland JU-2、シンセ音源 Roland MKS-80/MKS-30/MKS-10、リズム Roland TR-707、ベース Roland TB-303、シーケンサ Roland MSQ-700、その他ミキサー、エフェクト。

チャンジ：テクノっぽさを感じるテンポが128なんですね。

チグリス：子供たちの前で演奏する機会もあったりするんですが、みんな飽きずに楽しそうにリズムに乗ってくれます。誰もが体を動かしたくなるノリやすいテンポだと思うんです。

ダンスジャンル別BPM
（DJ-ASIA主観）

Dubstep=140

Trance=130〜150

HipHop=60〜110

EDM・テクノPOP=128

時代で変わるテクノと道具

アジア：メトロノームが電子化されてさらにパーソナルコンピュータ（以下PC）のソフトになっちゃったように、音楽から遠い存在だった先端技術「電子計算機」を使って音楽をつくったり演奏したりがテクノの走りだったけど、今は下手したら小学生でもスマホで色々できちゃう。

チャンジ：YMOの頃は後ろに「タンス」って呼ばれてたモーグシンセサイザーがドーンと置いてあって、曲ごとというか音ごとにセッティングしてましたもんね。

アジア：ステージ狭しと並べられた機材を使いこなして新しい音を聞かせるのがテクノの象徴的なイメージだよね。

チグリス：そう、そんなイメージが残りつつ、今はリズムや音楽技術としてダンスシーンやポップスの中にテクノは浸透してるんですね。

アジア：厳密にいうと70〜80年代頭のテクノとハウス系から出てきたテクノは別ものだけどね。

チャンジ：未来志向という点では同じじゃないですかねー。時代の先を見てる音楽というか。

TM：先ほど「今ではスマホで・・・」って話が出ましたが、テクノといえば機材の話は切っても切れないですよね。

チャンジ：アナログな作業をデジタルっぽく見せる所から始まって、今やデジタルでアナログっぽさを表現するという変な時代になりました（笑）。

アジア：ハードもソフトも進化してるからね。電子楽器やPC使うのがテクノって感じだったけど、今はどんな楽曲制作にもデジタル機材は不可欠になってるもんね。ボーカロイド使えば歌まで入っちゃうし。

チグリス：PC1台あればほとんどできちゃうんやけど、もうひと味欲しくなる。ライブステージだとPCに打ち込んだ音源だけだとただのカラオケショーになっちゃうから（笑）。

アジア：その時代の先端技術と音楽の融合がテクノだとしたら、いまやみんなテクノだよね（笑）。

チャンジ：ひとりでピコピコやってた私としては、やはり複数の機材を使いこなすのが醍醐味でしたね。それにシーケンサーやリズムマシン、キーボードにしてもそれぞれに使い手のこだわりや味のある機材がたくさんあるんですよ。例えば最近流行したピコ太郎のPPAPで使われて話題になったローランドのTR-808は、三十数年前の機材なのに未だに根強いファンがいて、最新機種のTR-8ではその機能をデジタルで再現してるくらい。

チグリス：エレクトロニックミュージックが誕生した原点としてドキュメンタリー映画にもなっちゃうくらいだから。

チャンジ：あと私が学生時代あこがれて下敷きにカタログをはさんでいたローランドのSYSTEM-100っていうシンセサイザーの名機もソフトシンセとして復刻されてます。

ローランドTR-808（1980年発売）俗称「やおや」とも呼ばれるリズムマシン。その独特の音色が多くのジャンルで指示され、現在でも欠かすことのできない名機として高く評価されている。当時の販売価格は15万円。（画像提供：ローランド株式会社）

浜松とテクノ

TM：名機は時代を超えてデジタルで補完されてるんですね。でも、そんな名機が生み出された企業のお膝元なのに、電子音楽、テクノバンドの活動って浜松では聞かないですよね。

アジア：チグリス率いる「メソポタミア」くらいしか思いつかない。

チグリス：だからテクノっていう自覚はないんですけどね（笑）。

チャンジ：自分でなんらかの楽器を演奏する人が多いんでしょうね。バンドとして活動したり吹奏楽だったり。浜松の音楽教育自体が「音楽をやる＝楽器の演奏」みたいな。もっと聴く楽しみや楽器が苦手でも参加できる楽しさを取り入れたらいいのにと思います。だから個人の微力ですが、音楽をやりたかったけど楽器ができないとか、仲間が居ないとかいう方々のサポートを今後の自分の音楽活動のテーマにしていこうと思ってます。

チグリス：自分がそうなんですけど、楽器ができなくても楽譜が読めなくてもPCを使えたら音楽ができるんですよ。そこにファッション性や、自分ができないことができる仲間を巻き込んでいったら、さらにオリジナリティのあるステージを生み出すことができるんです。みんなもっとやればいいのに（笑）。

アジア：ネットで配信とかの発表の場もあるんだけど、生でお客さんの反応を見られるライブ感は大事にしたいよね。

チャンジ：自分で音楽をする楽しみのひとつは、リアルタイムで音を操ることだと思うんですよ。楽器って鍵盤や弦が張ってあるものだけじゃなくて、DJが扱うスクラッチのつまみだったり、PCのマウスだったり、音をコントロールできるものであればそれは楽器。楽器メーカーさんもそういう柔軟な認識してくれたらなあと思います。音楽をするにはソフトもハードも恵まれた時代。音だけじゃなくて、映像やらその場の感覚を操ったり、自由に表現を試すことで新しいテクノが生まれてくるんじゃないでしょうかね。

TM：今後の皆さんの活動が浜松の新しいテクノポリス化に繋がっていったら面白いですね。ありがとうございました。

パトメモ Isso Patrisia pensava

音楽について詳しく話をする機会なんて今までなかったし、カラオケで宇多田ヒカルを歌うくらいしか自分で音楽を楽しむことってしてなかったんですが、皆さんのお話はとても面白かったです。テクノっていうことに関してはあんまりわからずじまいでしたけど（笑）。でも、なんか音楽っていうと、ピアノとかギターとかっていうイメージでしたが、意識っていうか見方が変わりました。いろんな楽しみ方があるのがいいなあって。一度ライブハウスとかにも行ってみたいと思いました。

AIRA

尖った製品を作る！若き SAMURAI の熱き想い

Roland Digital Sound Products「AIRA」開発者に聞く最新テクノ機材

1980 年、後に伝説となる製品が Roland で産声をあげた。
『TR-808』打ち込みで曲作りをするクリエイターに愛され続け、40 年近く経った今でも根強いファンが多いリズムマシンの名機である。
更に、TR-909 · TB-303 · SYSTEM-100...etc、業界に革新をもたらした製品が Roland から続々と発表され、時代を作り、人々をワクワクさせた。
数多くの名機達を生んだ Roland が 2014 年にダンス · クラブミュージック向けのプロダクツとして『AIRA シリーズ』を発表した。EDM が世界的なブームを見せる中、最新デジタル技術で進化したシステムと斬新なデザイン、更にリアルタイムのパフォーマンス性に特化した『AIRA シリーズ』は、ユーザーの心を掴んだ。更に、モデリングの新技術 ACB（Analog Circuit Behavior）によって、数々の名機の音を完全に再現するだけでなく、次世代のパフォーマンス性能も実現し、再進化させた。

「ユーザーを驚かせる、尖った製品を作るというコンセプトは一番最初に決まってました。」
『AIRA シリーズ』開発プロジェクトの田原さんにお話を伺ったときの開口一番の言葉だ。
「TR-808 の復活を望む声も届いてます。しかし、楽器メーカーとしては革新的で魅力的な製品をお届けするのが使命です。ユーザーが望む音を再現した上で、更に挑戦的でワクワクする製品として AIRA シリーズを開発しました。過去をなぞるだけでなく、常に新しいものを提案することが音楽文化の発展に繋がると思います。」

「特にこだわったのは、Rhythm Performer の名前から連想されるようにパフォーマンスで使える製品。ライブでリアルタイムに演奏する“楽器”としての可能性です。今までは、DTM やレコーディング等の曲作りでの用途が多かったジャンルの製品ですが、AIRA はクラブで DJ がお客さんの前でライブ演奏をする事を前提にしてます。本体重量も持ち運びできるようにだいぶ軽くしました。」
アナログからデジタルになり、一時期ツマミやスライダーが無くなり、ボタン 1 つで特定の設定を呼び出せるプリセット型のインターフェースが流行した時がある。しかし、近年ツマミやスライダーが前面に出ることをユーザーが望んでいる。ツマミやスライダーを操作する喜びや楽しさが奏者の感性を刺激し、自由度と操作性が楽器としての演奏性を実現しているのだろう。

楽器の街浜松だからこそ普段から演奏者や楽器産業関連の人と関わることが多い。Roland は日頃から演奏者同士の情報交換や社内のグループ間のクロスオーバーも盛んで、そこから新しいインスピレーションが生まれる社風だ。
過去と未来、人と人とのクロスオーバーで生まれた『AIRA シリーズ』は気楽に、手軽に音を楽しむための演奏楽器として広まっていく事が期待できる。
（Text：ドン · サハラ）

プロフィール／田原大地：RPG カンパニー 設計部。AIRAプロジェクト発足当初から関わっているRolandの若き開発者。インタビューの最後、自らもドラマーの田原さんに、Roland製V-Drumsを演奏してもらった。

Roland

TB-3 Touch Bassline

ベース・シンセサイザーの名器TB-303を精密に復元し、さらに進化させたTB-3は、自照式の感圧センサー内蔵タッチ・パッドを採用し、演奏やパターン作りがよりスムーズに。音程や音量だけでなく、パッドを押し込むことでモジュレーションをコントロールできるなど抜群のパフォーマンス性を備えています。

TR-8 Rhythm Performer

TR-8はTR-808、TR-909の伝説的なサウンドに、現代的な機能を融合したリズム・パフォーマー。ダンス・ミュージックで定番となっているサウンドやエフェクトはもちろん、現代的なリズム・パフォーマンス機能を兼ね備えた、TRシリーズの進化系です。

SYSTEM-1 PLUG-OUT Synthesizer

1970年代にローランドが発売したSYETEM-100／SYSTEM-100M。そして伝説的存在となっているSYSTEM-700。これらのモジュラー／セミ・モジュラー・シンセサイザーの持っていたサウンドと柔軟性は今なお高い評価を得ています。SYSTEM-1はその設計思想を受け継ぎ、高い柔軟性と、40年以上に渡って受け継がれてきたローランド・シンセサイザーのサウンドを現代的にアレンジした現代のSYSTEMシンセサイザーです。

Legend Products

TR-909:1983年

TR-808:1980年

SYSTEM-100:1976年
※写真はSYSTEM-100のシンセサイザー・ユニット部です。

TB-303とTR-606の当時の雑誌広告

TB-303:1981年

SYSTEM-700:1976年

取材協力：ローランド株式会社

Right Place, Right Time.

ライブが観られる。エンシュージアストが集まるHotな店。 Live Spot Guide

テクノだけじゃない、ロック、ブルース、ジャズ、フォーク…。
遠州・浜松はライブが観られる店がこんなにあります。
聴くのもよし、参加するのもよし、今日もどこかで誰かが叫び、どこかでギターが泣いている。
ライブスケジュールは各ホームページなどで確認ください。

ライブハウス 浜松FORCE

1988年に創業。浜松市を代表するライブハウスの一つ。県下最大級の楽器店&音響技術のプロ「クエストミュージック」が運営。音響照明設備はもちろん、空調、電源まで妥協を廃したクオリティが魅力。ビデオコンサートからクラブイベントまであらゆるケースに対応している。

DATA
浜松市中区田町315-31 3F　TEL. 053-415-9988
URL：http://www.questmusic.co.jp/force/
キャパシティ／200人
アクセス／遠州鉄道「第一通り駅」下車徒歩約5分

LiveHouse浜松窓枠

浜松市内最大規模のライブハウス。メジャーなアーティストから地元のバンドまで幅広く利用され、定期的にアイドルやお笑いのイベントも開催されている。2階にライブ可能なカフェを併設、アコースティックライブも行われ、人気を博している。

DATA
浜松市中区板屋町100-10　TEL. 053-451-3035
URL：http://madowaku.com/
キャパシティ／450人
アクセス／遠州鉄道「第一通り駅」下車徒歩約2分

ライブ&バー WATTS

今年10周年を迎えたWATTSのバックステージは浜名湖が180°広がる抜群のロケーション。浜名湖に面したリゾート型のライブハウスとして、多くのミュージシャン、オーディエンスから愛されている。オーナー自ら腕を振るうフードも充実。

DATA
浜松市北区三ケ日町大崎64-6　TEL. 053-526-2261
URL：https://hamanako-watts.wixsite.com/index
キャパシティ／120人
アクセス／天竜浜名湖鉄道「都筑駅」下車徒歩約27分

ライブハウス G-SIDE

ロックやパンク、ヒップホップ、レゲエ、テクノから、クラブ系のイベントまで、オールジャンルの公演を開催している。1,2F「G-SIDE　WELL　HALL」は2016年4月より「G-SIDE　Extra Lounge」となり、2017年7月から新店名「EXE」に変更。

DATA
浜松市中区田町327-27　TEL. 053-541-5067
URL：http://www.g-side.net/
キャパシティ／150人
アクセス／遠州鉄道「第一通り駅」下車徒歩約1分

ライブ&バー ビスケットタイム

浜松市中区鴨江2-50-16　TEL. 053-522-9182
URL：http://www.biscuit-time.com/

ライブ&バー POPS倶楽部

浜松市中区田町331-9 マルケンビル6F
TEL.053-525-7383　URL：http://www.pops.sakura.tv/

ライブ&バー Merry You

浜松市中区田町331-8 棒屋第3ビル4F
TEL. 053-456-3733 URL：http://www.merry-you.net/

ライブ&バー Combi-Ⅱ

掛川市下垂木2651-1　TEL. 0537-21-2390
URL：https://palettegroup.wordpress.com/

カフェ&ライブ ESQUERITA68

浜松市西区大平台2-48-30 1F　TEL. 053-485-9968
URL：http://esquerita68.jimdo.com/

ライブ&ビリヤード b SPACE

浜松市東区中野町164-2　TEL. 053-422-2055
URL：http://www.b-space.me/

ライブ&カフェ
なんでモール

浜松市中区上島5丁目22-26
TEL. 053-474-8889
URL：http://www.nandemall.com/

Rent & Live
ON THE ROAD

浜松市東区貴平町532
TEL. 053-432-2066
URL：http://www.ontheroad-web.com/

ライブ&バー
KIRCHHERR

浜松市中区田町229-13 B1F
TEL. 053-458-1388
URL：http://zoot-horn-rollo.jp/

ライブ&レストラン
Cafe処 すず木

静岡県磐田市上本郷1006-7
プレイスライフ105 TEL. 0538-36-7598
URL：http://cafedokoro.hamazo.tv/

エンシュージアスト編集部がオススメするイベント情報

10/21(土)

「いいことあるかもしれないよ」
高田エージCD完売記念
Thank You Japan Tour 2017

■会場　WATTS
■時間　OPEN 17:00/START 18:00
■料金　3,000円 (1drink付き)
■出演　高田エージ、
ききまたく(聞間拓&to--ru)、今野邦彦
■WATTS
TEL.053-526-2261

10/29 (日)

さなるこ音楽祭2017
- Lakeside Sound Museum 2017 -

■会場　佐鳴湖公園野外ステージ
(※雨天の場合はK-MIX本社
スペースK にて開催)
■時間　11：00～19：00
■料金　前売3,000円、当日4,000円
(※保護者同伴に限り高校生以下無料)
■出演　Thamii、一二三、
たゆたう、イニセアフリカ 他
■さなるこ音楽祭実行委員会
TEL.080-3604-2980 (代表 福山)

11/4(土)・5(日)

イケヤ×窓枠共同企画
**ラジオを聞いて
ライブに行ってCD買おう**

■会場　LiveHouse浜松窓枠
■時間　4日 開場11：00／開演12：00
5日 開場10：00／開演11：00
■料金　両日共の前売3,500円 (1d別500円)
■出演　THEビール飲もうズ 他
■Live House浜松窓枠
TEL.053-451-3035

THEビール飲もうズ

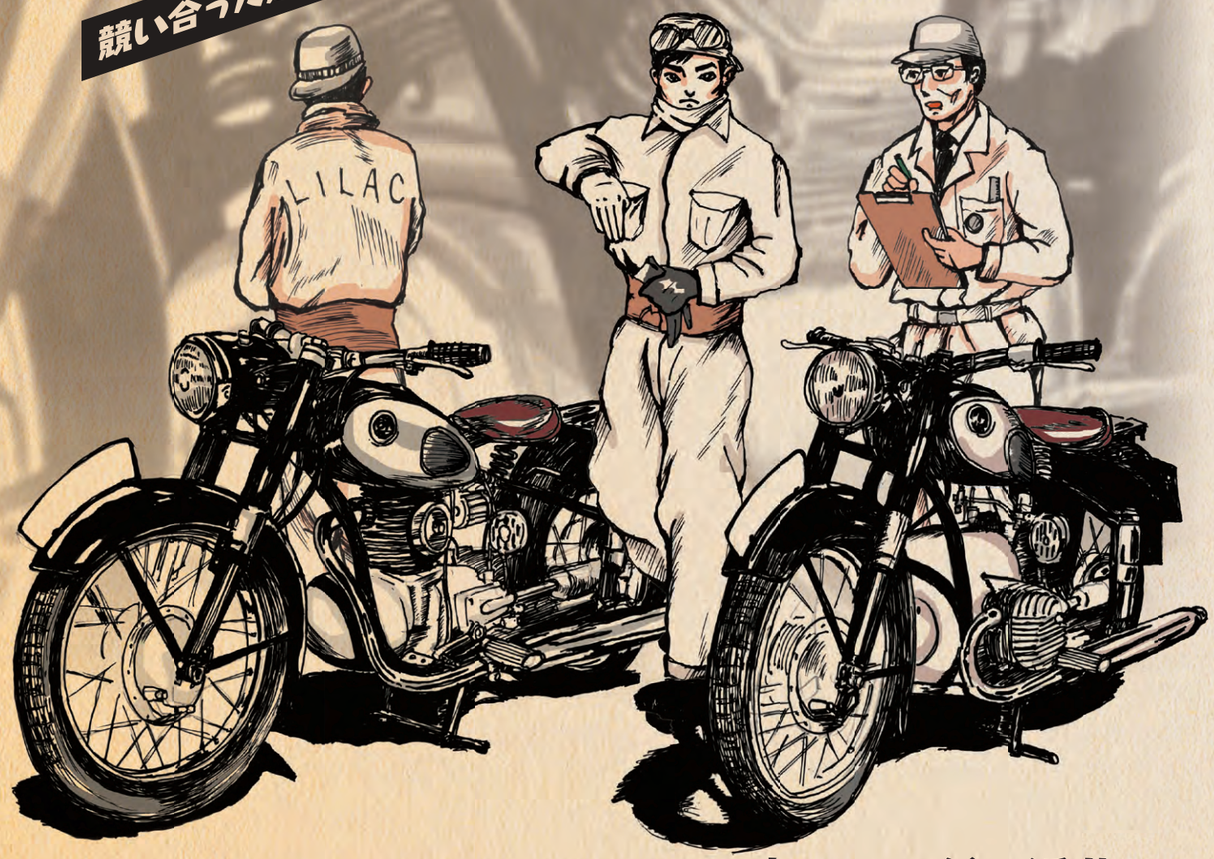
←次号では、ギターとともに全国を旅する高田エージさんに「ツアーミュージシャンという仕事」について浜松出身のミュージシャンを交えて語っていただく予定です。お楽しみに！

新連載!!

六間道路グランプリ

ライラック伝説（前編）

かつて、遠州の男たちが
「ものづくり」の夢を
競い合った道があった。



文・コージー近藤
絵・アジキング石塚

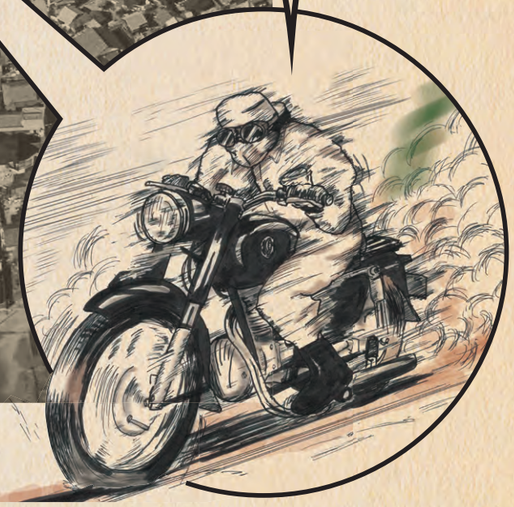
EnshuSiast Girl

Vol.1 John
<馴松純子>

こんにちは古着屋PRECIOUS JUNKの“じょん”です。私はバイクに乗れないんですが、颯爽と走るバイクには憧れます。こんな可愛いスクーターに乗ってお出かけしたら楽しいだろうなと思います。うちは’80sファッションを中心に扱ってますが、仕事がらバイクに乗る人のスタイルにも目がいきますね。バイク乗りの皆さん、カッコよく安全に乗ってくださいね。

<撮影協力>古着屋PRECIOUS JUNK TEL.053-455-5625 @preciousjunk14（Twitter,Instagram）／TICKLE TEL.053-467-0160 http://tickle-mc.com

六間道路グランプリ



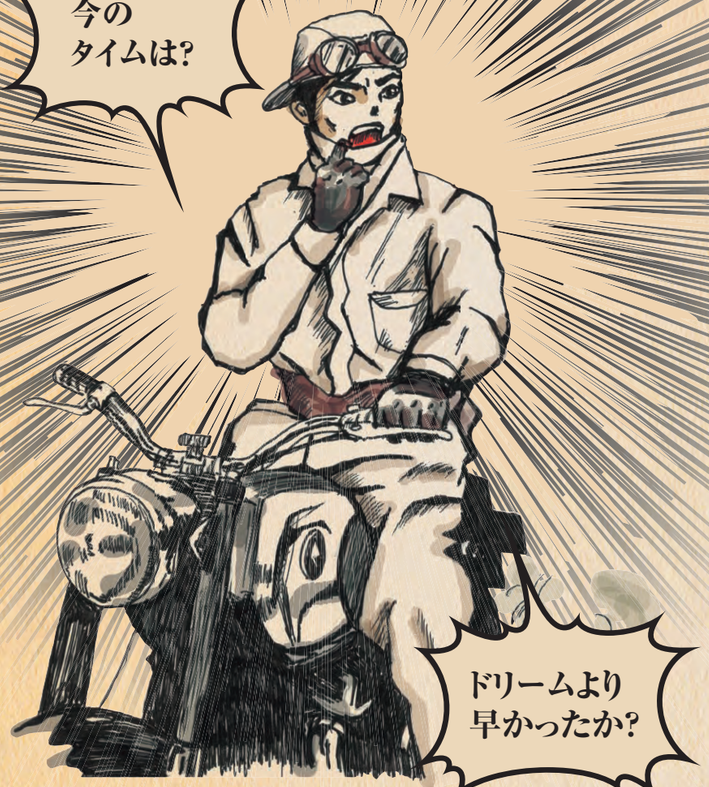
戦時中、和地山にあった軍事施設に物資を運ぶために広く、長く舗装された六間道路。オートバイの試走にうってつけだった。道路幅六間は約11メートル（1間=181.8cm）。この道路沿いだけでもオートバイメーカーが4社（丸正自動車、本田技研工業、中央興業、ロケット商会）また、その周辺にも数社のメーカーや関連工場が集まっていた。

未来につながる一本道！

「おい、俺りゃ昨日50キロ出しただにぃ！」「ほんとけぇ、そんじゃあ、今日ワシがそれを抜いたるでの1、55キロじゃ」―― 威勢のいい声と共にきらきらと目を輝かせた男達がオートバイにまたがり、街のあちこちから集まってくる。やがて、何台かが道路を一気に駆け抜けたり、何人かは、エンジンや車体を自慢し合うバイク談義に夢中になったりと、道路は賑わいと活気であふれた。

浜松『六間道路』。現在もその愛称で、静岡文芸大や遠州病院、消防署が立ち並び、浜松市街を東西に走る交通の要所となっている大通りである。時は、昭和20年代半ば、本田宗一郎の「本田技術研究所（山下町）」をはじめ、ライラックの「丸正自動車」ラッキー号の「ヤマト商会」ライナー号の「北川自動車工業」など浜松には多くのオートバイメーカーが生まれていた（昭和28年には35社）。各社が個性や性能を競い合い、しのぎを削っていた時代、広く長い直線と西端にはヘアピンカーブや坂道を有する六間道路は、オートバイの速度を測定したり、登坂試験やブレーキテストをしたりするのには恰好の道路であった。オートバイメーカーや関連工場がこの道路周辺に寄り添うように建ち、さながらオートバイの大工場、あるいはレース場と化していた。

「ああ、こんな夢のような時代が来るとは…」伊藤正（まさし）は青空を見上げ、そう呟いた。当時、数あるメーカーの中で異彩を放っていた『丸正自動車製造株式会社（後の株式会社ライラック）』の創始者である。彼がそう思うのも無理はない、ついこの間まで日本は戦争をしていたのだ。その間、浜松の工場という工場は戦争のための軍需品づくりを強要され、好きなものを造れなかった。そして、昭和20年の6月、浜松は米軍による最後で最大の爆撃を受け、街は焼け野原、何もかもが破壊されたのだった。迎えた終戦、明日がどうなるかなど誰も想像できなかった時代だったからである。



1953（昭和28）年5月5日、浜松まつりのパレードに参加。六間道路、丸正自動車本社工場前。この頃、本田技研工業や鈴木自動車工業の成功に刺激され、全国にオートバイメーカーが乱立、浜松市内を中心に35社が誕生した。

昭和28年頃、浜松・名古屋間の道路が整備されたことを記念して、丸正自動車から名古屋市庁舎までの遠乗会を実施。

オヤジとの因縁！

『仕事はやめだ、一年間、俺は遊んで暮らす！』焼け野原を前に、そう宣言したのは本田宗一郎だった。彼は、天竜の村から東京の自動車修理工の丁稚（でっち）（見習い）時代を経て、若くして独立を果たし浜松で自動車修理工場『アート商会』を開く。その後、一介の修理工場では満足せず、製造業へと転換を図るため新たに会社（東海精機）を興して高度な技術を要するピストンリングの国内製造を実現した。その直後の敗戦であった。混沌の中で、宗一郎はジタバタせず将来を冷静に見極めようと考えての充電期間であったといわれる。

伊藤正はその『アート商会』で丁稚奉公として働いていた。伊藤正は磐田の出身であるが、最初は上京してせんべい屋で働いた。しかし、奉公先の重労働から両膝の軟骨が飛び出す大けがを負い、治療のため帰郷を余儀なくされた。そして、縁あって宗一郎の下で働くことになったのだった。

宗一郎の仕事の厳しさ、弟子の扱いはむちゃくちゃだったという。手が出る足が出る、スパナで頭を殴る…。伊藤正も例外なくしごかれた。「オヤジ（宗一郎の愛称）に殴られた跡は、10円ハゲになってずっと残ったよ」と、生前、伊藤正は語っている。伊藤正はしごきに耐え、年季を終えて一人前の整備工に成長したが、ついには宗一郎のもとを離れ、野口町に自動車修理工場『丸正商会』を開いた。しかし、戦中は、宗一郎に誘われ時、東海精機に課長として勤めるなど、その後の関係は続いていた。宗一郎の過激な言動には、どこか憎めぬ魅力があったといわれる。戦後、伊藤正は上池で自動車修理会社を再開する。そして、有能な技術者、溝測定をスカウトして順調に商売をすすめていくのであったが、オートバイ製造には手をつけていなかった。

一方、人間休業宣言から1年余りを経て宗一郎が着手したのは、陸軍で使用していた無線用小型エンジンを自転車に載せた原動機付き自転車の開発だった。安くて手軽なオートバイがあれば人の足となり、街の復興につながると考えたからだ。それは『バタバタ』と称され庶民の人気を博し、さらに車体から自社で造る本格的オートバイのドリーム号へとつながっていくのであった。

当時、浜松にはすでにものづくりの基盤があった。その原点に遡ると、現在のJR東海浜松工場の前身、1912（大正元）年操業の『鉄道院浜松工場』にたどり着く。浜松は、この工場建設のため他の候補都市との熾烈な誘致合戦の末に工場建設を勝ち取る。そこに、機関車の修理・製造のために全国から腕利きの職人が集まってきたのである。

2017.7.1
浜松市南区
卸本町に

あなたのバイクライフをトータルでサポートする

「エッジ」OPEN!!

モトサービスエッジはバイクの「困った」に応えるメンテナンスガレージです！

●タイヤ&オイルなど消耗部品の交換、各種点検修理、車検、2輪用品、純正部品取扱い。

●カスタム、エンジン&サスペンション各種OH、レーシングサービス、塗装、FRP、カーボンコンポジットパーツ製作等もご相談ください。

●ブリヂストン、ミシュラン、ピレリ、メッツラー、ダンロップ取扱い。在庫あり。迅速お取り寄せ可能。

ガレージメンバー募集中！

サービスピットに隣接した保管スペースで
あなたのバイクライフを万全サポート！
(月額7,000円～)　※詳細はお問合せ下さい。

本格的電動バイク＝ゼロ(ZERO MOTERCYCLES)取扱い！

ZERO MOTORCYCLES
CRAFTED IN CALIFORNIA

電動バイクでマン島、パイクスピークにチャレンジした(株)MIRAIの手で上陸。
ビューエルのスポーツマインドも受け継いだシリコンバレー生まれ。
軽二輪の車格と電動モーターならではのトルク感が生む爽快な加速。

ネイキッドスタイルのフラッグシップ
車両本体価格　205万円(税抜)

AT限定普通二輪免許で乗車可！

軽快なシティランナー
車両本体価格　145万円(税抜)

スポーツ電動バイク
試乗展示会

9/24 SUN

エッジ試乗車のFXSに加えて、
㈱MIRAIの複数台の電動バイクを体感！

要電話予約

MOTO SERVICE
EDGE

中部運輸局長認証工場
モトサービス エッジ　ms-edge.jp
〒432-8055 静岡県浜松市南区卸本町82
TEL:053-424-8586 FAX:053-424-8587
営業時間／11:00～20:00　定休日／火曜日
株式会社ジー・ゾーン

History ～遠州地域とライラックの歴史・前編〈1913（大正 2）年～ 1955（昭和 30）年〉

和暦	西暦	出来事	世相
大正2年	1913年	磐田郡豊田村の小作農の三男として伊藤正が生まれる	
昭和2年	1927年	伊藤正、東京の老舗煎餅屋へ丁稚奉公に出るも、怪我をし帰郷	
昭和3年	1928年	本田宗一郎が元浜町にアート商会浜松支店を設立	
昭和4年	1929年	伊藤正、本田宗一郎経営のアート商会浜松支店へ入社、自動車修理の修行を積む	
昭和13年	1938年	伊藤正、兄とともに浜松市野口町にて株式会社丸正商会を設立、自動車修理工場を開業	
昭和16年	1941年	国鉄の浜松工機部に工場を15万円で売却、国鉄に課長待遇の条件を出すも約束を反故される 本田宗一郎に請われ、東海精機に入社、工作機械部門の課長職に就任	太平洋戦争開戦
昭和20年	1945年		浜松大空襲、太平洋戦争終戦
昭和21年	1946年	終戦後、本田宗一郎が東海精機を退社、ほどなくして伊藤正も東海精機を退社 浜松市上池川町に自動車修理工場を建設、自動車修理販売及びトラックボディの製作を開始	
昭和23年	1948年	チャンネル（溝型）フレームに自動変速機構のライラックML型の試作に成功	
昭和25年	1950年		朝鮮戦争勃発
昭和26年	1951年	社名を丸正自動車製造株式会社に改称し、業務も二輪車製造に切替え、ML型に加えLB型の本格的な生産を開始する シャフトドライブを採用したチェーンのないオートバイ、ライラック号が誕生	
昭和27年	1952年	浜松市森田町の工場を買収、増産体制を確立する	サンフランシスコ講和条約締結
昭和28年	1953年	販売網拡張のため、本社を浜松から東京都中央区日本橋通りへ移転する 独創性あふれるデザインのベビーライラックJF型を発表、世間の大きな注目を集める 名古屋および福岡に支店を開設、この年の秋には東京都中央区八重洲に本社分室を増設する 浜松モーターサイクル工業会が設立され、理事の一人に丸正の伊藤正が選任される	朝鮮戦争休戦、戦争による特需も終わる 第1回富士登山レース開催
昭和29年	1954年	大坂支店を新設し、強力な販売網を確立する 初の最高速度時速100キロ、当時の法令の上限であった250ccのエンジン搭載車KH型を発売 セル付水平対向350ccのライラックドラゴンTW型を発売	第2回富士登山レース開催
昭和30年	1955年	第1回全日本オートバイ耐久ロードレース（浅間火山レース）250ccクラスにてライラック号（SY型）が伊藤史郎選手によって優勝を飾る 125ccクラスではベビーライラックJF型がチーム2位に入賞	第3回富士登山レース開催

丸正自動車、最初に完成したオートバイ
「ライラックML 1948年」

独特のデザインとハンドグリップの操作による2段ミッションで注目された「ベビーライラックJF 1953年」

1955（昭和30）年、第1回浅間高原レース250ccクラスで優勝した「ライラックSY」(左)

写真提供:高須修 氏

やがて彼らの技術は浜松地場産業の繊機や楽器産業、工作機械へと拡散し、その技術力の発揮が浜松を一大工業都市にのし上げたのである。それゆえ、多くの工場技術者は、宗一郎が拓いたオートバイの未来を信じ、オートバイ製造へと走ったのだ。

六間に咲いたライラック！

「伊藤社長、うちもオートバイを造りましょう！」ホンダでエンジン設計をしていた河島喜好と浜松工専（現静大工学部）で同期だった丸正の溝測定もオートバイづくりを夢見た。宗一郎にリベンジを考えていた伊藤正は、その言葉に動かされた。「しかし、やるならオヤジとは違うオートバイを造るんだ！」伊藤正のライバル心に火が付いた。

宗一郎の下で身につけた伊藤正の技術力はピカイチであった。そこにアカデミックな溝測の設計思想と技術が加わって、六間道路で試作車を走らせる日々が始まったのである。彼らが出した答えはチェーンに代わるシャフトドライブの採用だった。1948（昭和23）年の「ライラックML」の成功を皮切りに、独特なデザインと優れた設計で次々に名車を発表、丸正自動車の快進撃が続いた。

1952（昭和27）年には増産体制、翌年には業務拡張のため、浜松から本社を東京へ移転、名古屋、福岡に支店開設。正は浜松モーターサイクル工業会の理事に就く。オートバイ産業が隆盛を極め、全国的なレースも盛んに行われるようになる。1955（昭和30）年、第一回全日本オートバイ耐久ロードレース（浅間火山レース）250ccクラスでライラック号（SY型）は念願の優勝を飾る。「やった、オヤジに勝った！」伊藤正が本田宗一郎に肩を並べた瞬間だった。

未踏の道に挑む！

戦後の浜松オートバイ産業黎明期である六間道路時代、伊藤正にとって宗一郎は師匠でありライバルであった。今では信じられないことだが、宗一郎は丸正に立ち寄っては様子をうかがったり、実車を前にして助言をしたりしたという。お互いに切磋琢磨し、それぞれの哲学でオートバイづくりを目指したオープンな時代。おおらかな時代ゆえ夢もチャンスも大きかった。確かに丸正自動車はホンダとともに六間道路を制し、浜松を代表するオートバイメーカーとなった。しかし、次なる道は浜松圏外、そして世界だった。その道には時流の急カーブやビジネスの落とし穴があり、オートバイづくりの成功は製造技術に加え、企業のハンドルを握る経営者としての技量にもその運命がかかっていた…。

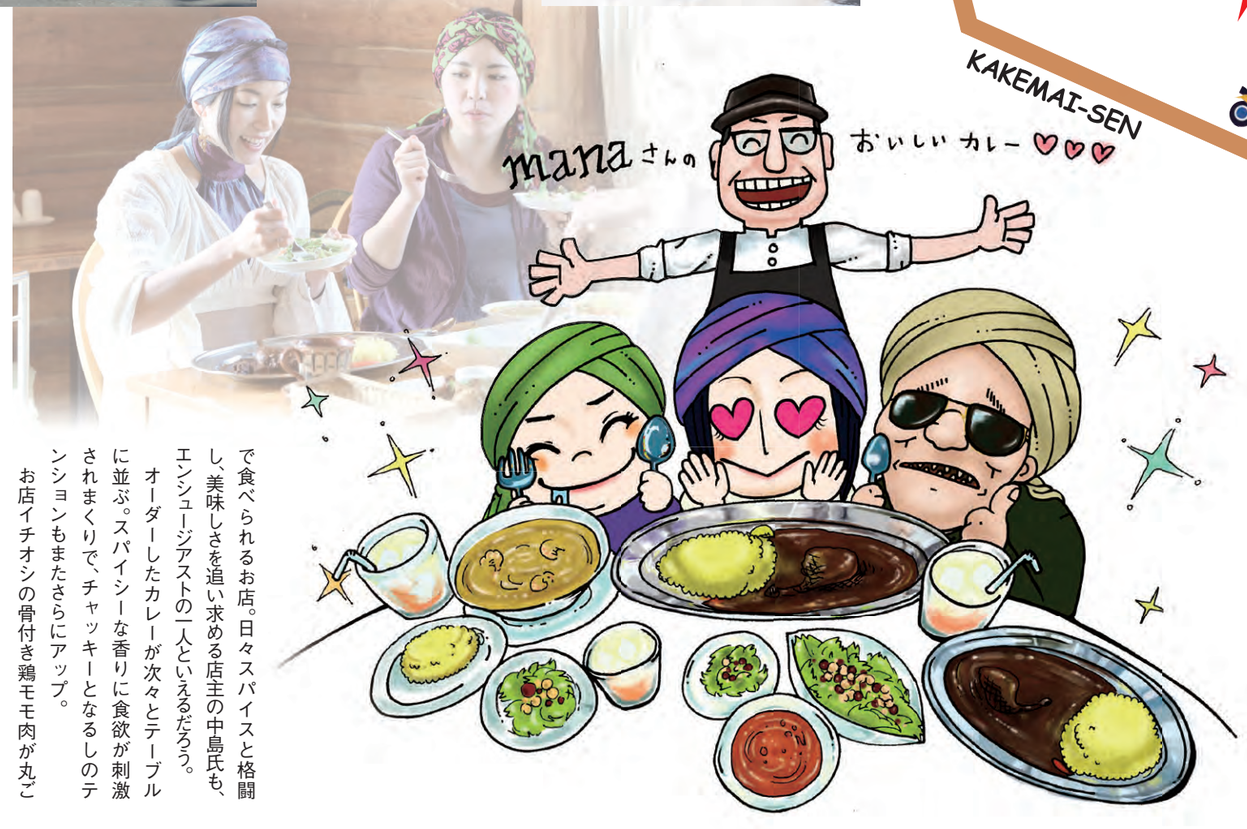
次号へ続く！

協力者（敬称略）：
高須修（元丸正自動車製造株式会社エンジン開発設計者）、日置義明（ライラック友の会）

参考文献：
浜松市博物館『浜松オートバイ列伝』『ライラックの軌跡』『天野久樹・浜松オートバイ物語』、
鈴木康雄・志水三喜郎『劇画・本田宗一郎青春伝』

Ricky a GO GO!

『Ricky（リッキー）』とはインドで広く普及する三輪車、オートリクシャーの愛称だ。
何とも愛らしいスタイルの黄色いリッキー。
輸入元であるカマラドガラージュでこのリッキーに出会った瞬間、
天の啓示を受けた（ような気がした）。
「そうだ、リッキーに乗ってカレーを食べに行こう」と・・・。



思い立ったらやってみる それが楽しさ追求の基本

そんな思いつきに賛同してくれて、今回同行してくれたのは、ベリーダンサーのチャッキーとカマラドガラージュのスタッフでもあり、絵描きとして活動する成島なるしの二人。両人とも衣装まで考えてきてくれて、ターバン姿の運転手（筆者）と合わせてインド・・・というよりボーダレスな雰囲気。

天気も上々、リッキーに乗り込んでカマラドをいざ出発。目的地は佐鳴湖畔にお店を構える「印度カレーｍａｎａ」。ここから10キロちょっと、時間にして30分ほどのドライブ。

CAMARADE GARAGE

佐鳴湖畔の緑のトンネルを抜けて印度カレーｍａｎａに到着

「カラダよろこぶ印度カレー」を看板に掲げるｍａｎａは、スパイスの芳香と辛さにこだわった辛口の本格インドカレーから、マイルドで甘口のインドカレーまで食べられるお店。日々スパイスと格闘し、美味しさを追い求める店主の中島氏も、エンシュージアストの一人といえるだろう。

オーダーしたカレーが次々とテーブルに並ぶ。スパイシーな香りに食欲が刺激されまくりで、チャッキーとなるしのテンションもまたさらにアップ。

お店イチオシの骨付き鶏モモ肉が丸ごと入ったチキンマサラカレー、ぷりぷりの海老がゴロゴロで嬉しい海老クリームカレー、まめ豆サラダにタンドリーチキン。ホットになった口元をマンゴーラッシーでクールダウンしながら、アレを一口、コレを一口と三人でシェア。あっという間に美味しく完食。

満腹感と、黄色いリッキーを見て受けた啓示を実現できた満足感にしばしひたって・・・いる間もなく、お姫様たちのにぎやかなおしゃべりとともに帰路につく。

店主の中島氏と。
今日もおいしいカレーをありがとう！

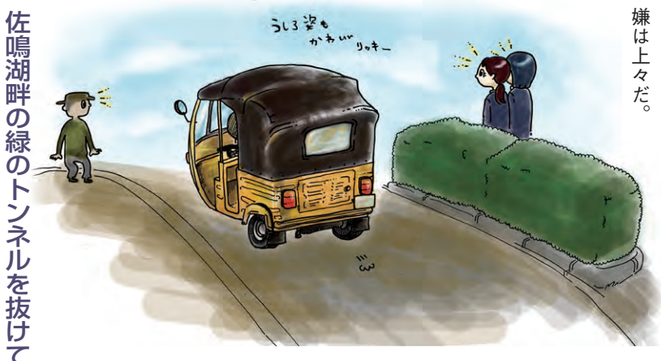
リッキーについてもう少し掘り下げてみよう

今回お借りした試乗車は４サイクル・１７５ｃｃのインド・ＬＯＶＳＯＮ社製オートリクシャー。

「オートリクシャー」の語源はなんと日本語。明治時代に日本からインドをはじめ海外諸国に輸出された「人力車」という言葉がもとになっているそうだ。

同じ三輪自動車でも、東南アジアで普及するトゥクトゥクよりも一回り小さいサイズで、日本でも普通乗用車の普及ま

走っていると、道行く老若男女から注目の的。後部座席の二人といえば・・・踊ってるし・・・。後部座席はベンチスタイルのスポンジシートと背もたれといった簡単な作りなのだが、リッキー独特の開放感と振動がアトラクションのような楽しさを感じさせてくれるようで、二人のご機嫌は上々だ。



どいいじゃん

Ricky a Go Go!

ベリーダンサー／
ベリーダンス講師
miho（チャッキー）

ベリーダンススクール amoferryl主宰。ベリーダンス・ベリーエクササイズインストラクター。静岡県浜松市を中心に活動中。優雅でミステリアスな雰囲気を醸し出すオリエンタルダンサーであり、ミュージシャン・アートとの共演でオリジナリティーあふれるステージパフォーマンスは観るものを惹きつける。

絵描き
成島なるし

今回、モデル兼このページのイラストを担当。「見る側も描く側も楽しい絵」「キャンバスだけでなく様々なものに自分の世界を描く」「日々の暮らしに「ふふっ」としてしまうようなものを紛れ込ませよう」をコンセプトに独自の世界観で平面・立体を創作する。カマラドガラージュのキャラクター「きゃっとん」もなるしの作品だ。

ベスパそのままのハンドル周り。

リッキーの走る姿や街角に置かれた姿は、見ていて「ほっこり」する不思議な魅力がある。

フットブレーキはちょっと位置が高め。

エンジンルーム。とてもシンプルなつくり。

で数多く走っていた、小排気量のオート三輪に近い。実際、信号待ちの時やコンビニの駐車場などで年配の方から「これはオート三輪かね？」と話しかけられることもしばしばあるという。昭和を知る日本人にとって懐かしいスタイルであることは間違いない。

登録区分は「側車付軽二輪」。つまり、250ccのオートバイと同じ縁なし白ナンバー登録だ。ヘルメットの着用義務もなく、車検もないし、登録時に車庫証明も必要ない。ただし、運転にはオートバイの免許ではなく、普通車マニュアル免許が必要となる。

乗車定員は三名で、運転者のほかに後部座席に二名乗車できる。運転席はクラッチ、変速機の付いたベスパスタイルのハンドルにフットブレーキのシンプルな作り。前進四速でサイドブレーキの横にバック時にギアを反転させるためのレバーがある。

ハンドクラッチ+グリップシフトは慣れが必要だが、ベスパを運転した経験があればすぐに運転できるだろう。というのも、多くのオートリクシャーの原形がベスパカーで、その機構をそのまま流用、または模倣しているため、ハンドルまわりはベスパそっくりなのだ。

幌は後部座席まで大きくカバーしているので、横殴りの雨でもない限り運転のために合羽を着込む必要はなさそうだ。フロントガラスには小さなワイパーも装備されている。

最高速度はほぼ法定スピードとイコールといった感じ。のんびりトコトコがリッキースタイルなのかも。

同じ街の中でのほんのちょっとのお出かけなのに、リッキーで出かけると何故か楽しくなる。「冒険心」「遊び心」日常の中で心の隅に追いやられていた、そんな感情をくすぐるように刺激してくれる魔法の絨毯のような乗り物、それがリッキーなのだ。

取材協力

有限会社カマラドガラージュ
〒430-0825　静岡県浜松市南区下江町584-3
電話：053-426-2830
HP：**http://wrecker.camaradegarage.co.jp**

印度カレーmana
〒432-8002　静岡県浜松市中区富塚町5024
電話：053-458-1773
営業時間：11時00分〜14時00分（ランチタイム）
17時30分〜21時30分
定休日：木曜日
HP：**http://indocurry-mana.net**

1 Report

新茶に誘われライダーが森町に集合！
第9回 DAYTONA 茶ミーティング 2017

■2017年 5月 27日（土）
■株式会社デイトナ内 /テストコース

森町に本社を置くDAYTONAでは、今年も恒例の茶ミーティングが行われた。毎年大人気の試乗会には沢山のライダーが、普段走ることの出来ないデイトナのテストコースを、各バイクメーカー提供のニューモデルに跨がり、このイベントでしか出来ない体験をしていた。掘り出し物をゲットするチャンスのガレージセールでは、宝探しをするように思い思いに物色するライダー達の少年のような目が印象的だった。森町キャンペーンガールの茶娘が配る新茶は、今日のような晴天の屋外で飲むと一層新茶特有のみずみずしさが際立つ。普段まじまじと見る事のない白バイ展示は未来のライダー達に大人気だ。ステージでは元 WGPライダーの原田哲也さんも登場し、レースファンのテンションも盛り上がる。飲食ブースも充実していて、お腹も心も満たしてくれる。丁寧で痒いところに手が届き、さらに遊び心のあるDAYTONAの商品と同様に茶ミーティングも隅々までバイク愛が行き届いているイベントだと感じた。

3 Book

遠州の魅力を知るもうひとつの方法

2015年に創刊した「遠州の衣食住」をテーマにした冊子「えんらく」が 2年ぶりに復活。今回のテーマは「天竜の山」。前号では主に住環境にスポットを当てていたが、今号では「衣」にこだわり、地元浜松に古くから伝わる注染の技法に着目。雄大な自然と人々のくらし、天竜の人口美林が織りなす音や空間をモチーフにしたオリジナル手ぬぐいも制作。冊子と手ぬぐいをセットにして部数限定で谷島屋にて販売もされるが、冊子はフリーペーパーとして地域のフレンドリーショップにて配布されている。もちろん手ぬぐい本体も購入可能。詳しくはえんらくホームページにて。

■えんらくホームページ：http://enraku.net/

2 Shop

こだわる男の、至極の一杯

焙煎歴 35年の店主が自家焙煎で提供するコーヒーは、農薬も化学肥料も使わずに育てられたコーヒー豆だけを使い、自然にもカラダにもやさしく雑味のない至極の一杯。豆が一番おいしく仕上がる最適温度で、目の前で一杯ずつ丁寧に抽出されるやさしい味わいをゆったりと楽しんで欲しいという思いから、一杯を通常より多めの分量で提供。元エンジニアの経歴を持つマスターとの会話を楽しみに、多くのクルマ・バイク好きなファンが集まってくる。

■ Anny Coffee ／アニー コーヒー
浜松市東区中野町 17-1　TEL : 053-581-9777
営業時間 : 11 : 00 ～ 20 : 00
定休日 : 火曜日・第2日曜日

4 Report

30年ぶりに誕生の地に里帰り
SDR生誕30周年記念ミーティング

■2017年5月13日（土）
■ヤマハコミュニケーションプラザ（ヤマハ本社）

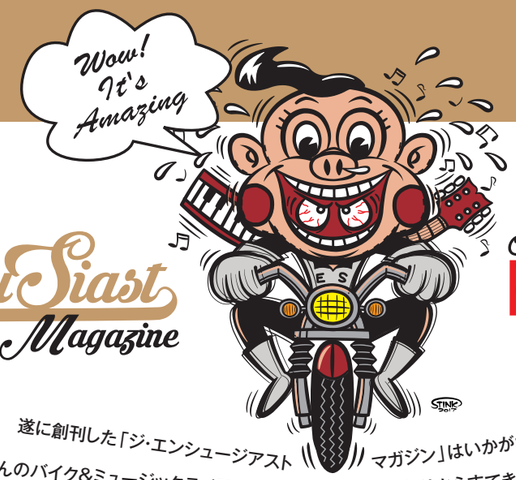
SDRオーナーズクラブ主催による「生誕30周年記念ミーティング」が開催された。朝から降り続く雨にもかかわらず約100名が参加、車両も遠くは函館からの自走も含め約70台が、誕生の地であるヤマハ発動機コミュニケーションプラザに集まった。20周年、25周年に続く3回目の開催で、今回は節目の30周年ということもあり、SDRの開発担当者・担当デザイナーを招いてのトークショーが行われた。2サイクル単気筒・トラスフレーム・シングルシートという「個性」の固まりのようなSDRというモデルについて、誌面には書けないような「開発秘話」も飛び出し、会場内はSDR愛にあふれるオーナーたちの熱気や興奮で大いに盛り上がった。恒例のビンゴ大会では参加オーナーが各自持ち寄ったSDRのパーツやグッズが賞品として用意され、メッキ仕様の純正フルエキゾーストを手に入れたラッキーな参加者もおり、次回の再会を約束して和やかな雰囲気のうちにイベントは終了した。

5 Report

様々な趣味の世界を満喫
OGUshow トランポパーク 2017

■2017年 5月 27日（土）・28日（日）
■ボートクラブカナル

トランスポーター専門店「オグショー」による、アウトドアスポーツのレクチャーイベント「トランポパーク 2017」が開催された。会場のボートクラブカナルは綺麗に芝生が広がる絶好のロケーション。「SUP（スタンドアップパドル）」「ドッグアジリティ／ドッグフリスビー」「バイク」「フィッシング」「ランニング」「サイクリング」「カヤック」という7つのアクティビティが用意され、プロアスリートが少人数の生徒に向け丁寧にポイントを解説してくれるという贅沢なプログラム。的確なアドバイスで生徒達はメキメキと上達し、会場のあちこちで満面の笑顔が広がっていた。夕暮れからは 5名のアスリートによるトークショーが行われ、普段聞くことのできないようなレース中の秘話も飛び出し、参加者とプロとの距離が縮まる交流シーンが生まれていた。翌日はボートクラブカナルによるボート試乗会が行われ、浜名湖クルージングを満喫。たくさんの楽しい思い出とともにイベントは大成功で終了した。



The EnshuSiast Magazine

For Readers PRESENT 読者プレゼント

遂に創刊した「ジ・エンシュージアスト マガジン」はいかがだったでしょうか
みなさんのバイク&ミュージックライフを応援してくれる協賛各社からすてきなプレゼントが届きました。

アンケートにお答えの上、ふるってのご応募をお待ちしております!

NO.1

Tokaiオリジナルキャップ
2名様
東海楽器(株)様より

NO.2

※カラーはこちらにお任せください。

Tokaiオリジナル ギターピック(2枚セット)
5名様
東海楽器(株)様より

NO.3

Tokai × EnshuSiast オリジナルT シャツ
2名様
東海楽器(株)様より

NO.4

10周年記念ステッカーセット(2枚セット)
10名様
浜名湖2&4スワップミート様より

NO.5

※サイズL

ROLANDオリジナルTシャツ
3名様
(株)ローランド様より

NO.6

世太郎ポストカードセット
5名様
40FACTORY様より

NO.7

オートリクシャーミニカー
5名様
(有)カマラドガラージュ様より

NO.8

※カラーはこちらにお任せください。

オートリクシャーマグネット
5名様
(有)カマラドガラージュ様より

NO.9

※カラーはこちらにお任せください。

クシタニオリジナル 浜松注染そめ手ぬぐい
5名様
(株)クシタニ様より

NO.10

※カラーはこちらにお任せください。

デイトナオリジナル ミニLEDライト
10名様
(株)デイトナ様より

残念賞

抽選にもれた方の中から
20名様に
エンシュージアスト
オリジナルステッカープレゼント!

■応募方法
プレゼント発送に必要な情報とアンケートの回答を明記し、
ハガキまたはEメールにてご応募ください。
①住所②氏名③性別④年齢⑤職業⑥電話番号
⑦メールアドレス⑧希望する商品名(1点に限る)
アンケート(全ての問にお答えください)
〈問1〉「バイクについてひとこと(意見・感想なんでもOK)」
〈問2〉「音楽についてひとこと(意見・感想なんでもOK)」
〈問3〉「エンシュージアストをどこで手に入れましたか?」
〈問4〉「エンシュージアストで面白かった記事は?(何点でも)」
〈問5〉「エンシュージアストへのご意見・ご感想」

■応募先
ハガキの場合
〒430-0928　静岡県浜松市中区板屋町101-22小川ビル3F-5
(有)キーウエストクリエイティブ内　エンシュージアスト編集部
メールの場合
enshu@key-w.com

■応募〆切
2017年11月26日必着(ハガキ・メールとも)

なお、当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。
※お預かりした個人情報は厳重に管理し、商品発送の他、読者層の把握など統計的にのみ使用致します。

7 Event

今年も「やらフェス」へGO!

『市民が奏でる、市民が楽しむ、市民がつくる音楽祭』を合言葉に市民手作りの“音楽の浜松まつり”をめざし、平成19年に第1回が開催されてから今年で早くも11回目を数える「やらまいかミュージックフェスティバル in はままつ(通称:やらフェス)」。今年の開催は10月7(土)、8(日)日の2日間。浜松の中心部に設けられた屋内外の多数のステージで、地元の音楽愛好家たちを中心に熱いライブが繰り広げられます。主催は市民有志の実行委員会。エンシュージアストによるエンシュージアストのための祭典。みんなで遠州を盛り上げよう!

■お問い合わせ
やらまいかミュージックフェスティバル実行委員会
info@yaramaika-mfes.com

6 Event

浜名湖2&4スワップミートVol.18 開催決定!!

東海地区最大クラスの2輪、4輪のパーツ交換会、浜名湖2&4スワップミート。11年目となる今年も10月の開催が決定した。一番の売りは300ブースに迫る出店数の多さで、バイクやクルマのパーツだけでなくオモチャや衣類・自転車など多彩なジャンルのアイテムが数多く出品される。会場内をじっくり周り、自分だけの掘り出し物を見つけ出すのが何よりの楽しみ。恒例のテーマイベント、今回は「レディースライダー集まれ!」と題し、当日はカッコイイ女性ライダーたちのパレードランが会場をホットに盛り上げる。充実した飲食ブースやミュージックライブも大人気で、乗り物好きだけでなく家族揃ってのお出掛けイベントとしても目が離せない。

■2017年10月22日(日)日の出～12時
■浜名湖競艇場東側駐車場

9 Item

誰でも簡単に演奏できる楽器「クロマハープ」

東海楽器製造㈱では1980年代に一世を風靡した「クロマハープ」を現代に復刻させて広めていこうと企画している。元々は米フィラデルフィアで135年前に誕生した楽器で、1960年代のフォークブームの時に人気が高まった。楽器を弾いたことが無い人でも簡単に演奏できるのがポイントで、左手でコードバーのボタンを押し、右手で弾く。これだけで伴奏やハーモニー、メロディを奏でることができ、老若男女を問わず誰でも楽器演奏を楽しめる。今回復刻されるのはピックアップを内蔵したエレクトリックとアコースティックの2タイプ。これから始める方にも演奏教室が開かれており、楽しみながら音楽を始めたい方にはぴったりの楽器である。

■お問い合わせ
東海楽器製造株式会社　TEL:053-425-2800

8 Event

太陽のエネルギーで走行する「ソーラーバイクレース開催」

オートバイの街・浜松を舞台にソーラーパワーで昼夜走行する「ソーラーバイクレース」が開催される。今年で13回目を数え、毎年県内外から多数のチームがエントリーし、社会人だけでなく中学校や工業高校の生徒達が、自分たちの手で自転車などを改造した「ソーラーバイク」を製作し、参加している。レースと銘打ちながらも、中には「SL」や「ねこバス」を模したユニークな車両も参加して、会場は微笑ましい雰囲気に包まれる。入場無料のイベントで、親子連れで訪れても楽しいであろう。

■2017年9月16日(土)・17日(日)
■浜松オートレース場
■お問い合わせ:ソーラーバイクレース大会実行委員会事務局
www.solarbikerace.com

乗り物と素材の話

飛行機と自転車の意外な共通点？

山本 雄一郎

やまもとゆういちろう・1985年生まれ・大手発動機メーカー勤務後、老舗自転車店にて修行。その後独立し、現在は自転車店「Green Cog」店主。

エンシュージアスト読者の皆様、こんにちは。南区の自転車屋です。

自転車屋的に最近気になるニュースとしては、航空自衛隊にF・35Aが配備されるという記事が1番のトピックでした。

アメリカを中心として国際共同開発された、最新鋭の多用途ステルス戦闘機であるF・35Aライトニング2が、なんと国内で組み立てられて航空自衛隊に配備されていくというのは、感慨深さと違和感が入り混じる気持ちです。

組み立てを担当する三菱重工は現在、民間航空会社向けの中型機「MITSUBISHI Regional Jet MRJ」を開発中です。

そうした民間機の開発技術の維持や向上のためにも、軍用機の生産に携わることは良くも悪くも重要な事のようですね。

さて、なぜこんな話をするかと言えば、僕が自転車屋を始めたきっかけが、大元を辿ると「飛行機が好きだ」という事なんです。どうでもいい！という声が聞こえてきそうなんですが、自転車と飛行機って、全く繋がらない訳でもなく、意外とリンクしているんですね。

特に素材の進歩です。「カーボン繊維複合材料」の使用は自転車に限った話ではないのですが、一般人がお手軽に乗る事ができる乗り物で、カーボン素材の使用率トップクラスなのが、自転車かと思います。最近は自転車の中でも特にロードバイクにおいては、カーボン製フレームが一般的になり、ホビーレーサーでもカーボン製フレームを比較的気軽に手に入れ、乗る事ができる時代となりました。最新鋭旅客機、ボーイング787はカーボンの使用率が高く、ボディはほぼカーボン製です。ここで使われるカーボン繊維は、実は殆どが東レ製なんだそうです。

その流れか、世界の自転車有力メーカーではカーボンのプリプレグ（カーボン繊維を編み込んで樹脂を染み込ませた成型前のカーボンシート材料）は東レ製を使用する事がステータスとなっています。

元々は国産戦闘機である三菱F・2戦闘機において主翼をカーボンコンポジットの一体成型を成功させたのに端を発していて、飛行機でのカーボン使用 実は日本発の技術と言っても過言ではないのかもしれません。

そんな東レ製のカーボン繊維を使った自転車に乗る事は、少なからず航空機産業の恩恵を感じる瞬間です。

と、ここまではカーボン素材の話でしたが、金属材料も廃れた訳ではありません。ここからはさらに長くなりそうなので、また次回があればそこで。

樽林の日常写飯〜絞りは大体2.8〜

イカした一面を捉えてぶん投げる。それが快感なのです。

樽林武俊

くればやしたけとし・フォトグラファー 1980年生まれ。実家は父の代からの町の写真屋さんで、幼少の頃からカメラを玩具代わりに育つ。お仕事とは別にライフワークとして『毎日（というほどでもない）ポートレート』を撮り続けている。

僕は数年前から、お仕事での撮影の他にポートレート（人物写真）を撮っています。ルールはひとつ、その日たまたま会った人を一日一人撮るってシリーズなのです。

始めた当初は出来る限りかっこよく、可愛く、美しく、面白く撮ろうと躍起になっておりましたが、10人を越えた辺りでしょうか脳内で何かがハジけ飛びましてね（いま思えば、すごく大事な頭のネジだったのやも。見つけた方はご一報下さい）。

まず、その日の被写体に遭遇します。するとドラクエ宜しく脳内でコマンドが出るわけです。▼撮る▼撮らない▼たたかう▼にげるみたいな。

▼撮るを選択しますとですね、まず相手がどのようなジャンルの方かを見定めます。ここは男女関係なくみっつの項目に分かれます。ナルシストか、協力的か、頭おかしいか（良い意味で）。

まずナルシストさん。大変です。「こう撮られたい」ってのが決まってますからね。僕はビリー・ジョエルばりにオネスティにその人の外見に合った、撮ったら面白そうな内容をお願いするのですが、まず断られます。とにかく「こう撮ってよ」と言われる前に、良い感じのカットを提案して撮らせてもらいます。相手の希望通りに撮ったら、そらぁもうお仕事になっちゃいますから。尋常ならざるギャランティーが発生してしまいますから。半二頭分くらいの。

続いては協力的な方。これは説明はいらないですね。「なになに、面白そう！なんでもやっちゃう！」なんて言われた日には、2〜300円あげたくなりますよね。飛んだり跳ねたり埋まったり。ここぞとばかりにお願いしちゃいます。

最後は、頭おかしい（良い意味で）方。こちらから面白げなカットを提案する前にすでにやらかしてる方々です。こちらがカメラを向けるや否や食べかけのチーカマを巨乳に挟んだり、掃除機に寝技をかけたり、緑のたぬきを頭から被ったり。その瞬間を逃しちゃなるめぇとアツく撮り出せば、もう始まりますよ、ランデブーがね。：ランデブーって何でしょうね。

と、こんな感じで毎日（というほどでもない）誰かと対峙しておるわけですが、どなたを撮ってもやはり楽しいものです。だってみなさんそれぞれ、イカした一面を持ってますからね。それを捉えてぶん投げるのが、快感でなりません。あと52年くらいは続けていきたいと思ってます。

最近思った事、ずっと思ってる事。

ガキの頃の体験は今でも生きてる。

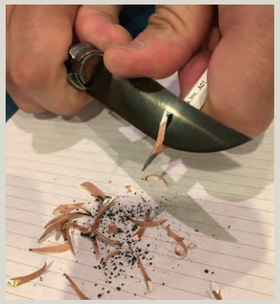
芳松 鎮

よしまつおさむ・1973年製・2016年12月、超思い切って脱サラし浜松市南区にGSバーガーを開業。金のかかる趣味ばかりで、結婚してからは仙人のような生活をしております。

自分はバーガー屋をやっています。そんな日々の中で思った事や、ずっと思ってる事を書いていきたいと思います。

先日、自分が尊敬してやまないボブ・ラブレスについて、ナイフマガジンのボブ・ラブレスの特集記事を見ながらお客さんと熱く語っていた時の事。あれ？「まわりの眼がオカシイ」どうやらナイフ＝危ない物、危険なヤツが持ってるモノなんですね。ラブレスですよ！ただの殺人の道具だった日本刀が今や芸術品になったように、カスタムナイフを芸術品の域まで高めた、あのラブレスですよ！なーんてほざいても伝わるはずもなく・・・「なぜナイフは悪者になったんだろう？」と少ない脳みそを使って考えてみる。

自分がガキの頃はポケットに必ず小刀の肥後の守という折りたたみナイフが入っていた。ケンカの護身用とかそんなアホな理由でなく、遊びの必需品だった。ベタなところだと、竹とんぼを作ったり箸やスプーンを作ったり、秘密基地を作る時なんて大活躍だ。たまに鉛筆を削ったり…とにかく何をするにも使っていた。まさに〝遊び〟の必需品。第一期ミニ四駆ブームの時などは、ボディやシャーシの軽量化の肉抜きも小刀を使ってやっていた。当然、指や手を切ってケガをする、めっちゃ痛い。でも、子どもの力だしナイフもそんなに切れないから、指を落とすような大ケガにはならない。そこが重要なんじゃないかと思う。



昨今、ナイフを使っての傷害事件や殺人事件がやたら多い。世間はすぐ「ナイフみたいな危ない道具は規制しろ！」という発想になるが、悪いのはナイフでなくナイフをそういう目的で使ったヤツだ。多分ナイフで事件を起こすようなヤツは、自分がナイフでケガをして痛い思いをした事が無いんだろう。ナイフを使った経験はテレビゲームでゾンビを倒したくらいに違いない。知らんけど。自分は冗談でもナイフを人に向けたら、今までのケガの痛みが蘇って膝が震える感じになる。痛みがわかるという事は大事な事なんですね。小学生は全員鉛筆で、丸くなったら肥後の守で削ろう！なんてなれば、多少はケガをして痛みがわかり、将来のナイフ事件が少なくなったりしないのかなぁ？っと、妄想したりしてみる。

現実的にはモンスターペアレントなんていう方達が、「うちの息子が指を怪我した！学校に損害賠償請求するぞ！」なーんて騒ぎ立てるんだろうな。ガキの頃のように大らかな世間が懐かしいです。

人生日々大喜利

今日遅刻する100の理由。

庄司哲也

しょうじてつや・コンビニ店長・1973年生まれ・いつも自転車屋さんにいてあだ名がテンチョーなので自転車屋の店長と思われる事が多いが、正確には「自転車屋さんに入り浸っているコンビニの店長」。ポリシーはそこそこ仕事してもりもり遊ぶ。

初めましてテンチョーです。コンビニ店長やってます。馴染みの自転車屋さんに毎日入り浸っていたらなりゆきで「エンシュージアストになんか書いてよ」って感じで書かせてもらいました。子供の頃から作文が苦手で夏休みの読書感想文をあらすじ丸写しだった自分が人目に触れるとこで文章を書く事にひたすら失笑してます。

●

コンビニという仕事は一日に1000人〜2000人のお客様が買い物していくので我々店側もたくさんのスタッフが必要となります。お店の売り上げ、立地、方針にもよりますが10人〜20人。ウチでも現在二店で35人のスタッフが交代で働いてます。これだけの人数になると滅多に顔を合わせない人もいたりしますが、スタッフのお陰で10年以上一日も休む事なく365日24時間営業が出来ています。学生、フリーター、主婦、Wワーク、バチプロ、旅人と様々な立場のスタッフがいるので毎日新しい発見があります。下手なコントより余程面白い（当人達は笑えない）事も…。

今回は「今日遅刻する100の理由」です。先日も深夜アルバイトさんから「アパートのドアノブが取れたので家から出られません」と遅刻宣言がありました。なるほど！家から出られないんじゃ仕方ない！！遅れて出勤してからも納得出来ないよう「どうすればいいですかね？」と自分に詰め寄って来ましたが知らんがな（笑）「大家さんに連絡した方がいいぞ」とアドバイスしておきましたトホホ。

お次は早朝勤務のアルバイトさんの言い訳。時間になっても来ないので1人で店番していたら「午前と午後を間違えました」と（笑）どうやら五時に起きたけど夕方五時だと思って二度寝してしまったそうです。なるほどわからん（涙）こうなるとアドバイスしようもありませんねトホホ。

最後の言い訳は「クツを忘れたので遅れます」…どうやって途中まで歩いて来たのでしょう。後々話を聞くと自転車専用のペダルに固定する靴で自転車通勤して仕事用の靴を忘れたようです。「出勤前に200㎞程トレーニングして来た」と何故かドヤ顔だったので「余力は残しておいて下さい」とお願いしておきましたトホホ。

人生日々大喜利。人生日々コント。残り97個はまたの機会に。今日どんなボケが待っている事でしょう〜ではでは行ってきます！

夫婦エッセイ

Cuba Libre

キューバ リブレ

憧れは邂逅を求める魂の流離なのだ。

初めて来た国のはずなのに、
頭の中にはこの国の記憶がすでに存在していた。
それを知ったのは止まった時間に音楽を感じた時だった。

ホセ・マルティ国際空港に深夜降り立ち、ホテルに向かってタクシーを走らせた。

夜も更けた道路は、交通量が少なく街灯も所々しか無いため華やかさはないがそこには自分が憧れていた光景が間違いなく存在していた。真っ暗な道の対向車線や路肩には古い1950年代のクラシックカーが趣味ではなく人々の移動の足として使われているのだ。映画「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」を見たとき、世界にまだこんな国があるのかと知り自分は激しくこのキューバという国に行ってみたいという欲望に駆られた。映画の中に映し出された町の風景はまるで半世紀以上時間が止まってしまっているように感じたからだ。

日本からハバナまで飛行機を乗り継いで 18時間以上、旅の疲れと興奮が混じり合った夢心地の中、鼻を刺激する湿気た潮とゴミと排ガスが混じり合ったなんとも言えない臭いが、ついにこの夢焦がれた国に来たことを実感させる。信号で止まると、真っ暗な道路の右折帯で懐中電灯も使わずにクラシックカーの足廻りを直している人がいる。そんな日本では考えられないような風景も、この国では日常の風景として感じられてしまう。

ハバナの旧市街まで来ると建物も増え、人通りも多くなる。映画で見たままのスペイン統治下時代の建物が雨の中佇んでいる。この風景に50年代以前の車がよく似合う。

ホテルに着きラウンジのバーでモヒートを一杯呑み、夢見心地のまま深い眠りに就いた。

平松拓也(文)
舞(写真)

荷物を満載したトヨタ・デリボーイで行く車中泊旅行をこよなく愛するしがないサラリーマンの旦那とカメラマンの嫁。
旅のモットーは「行き当たりばったり」。

今回の写真のイメージ曲

BUENA VISTA SOCIAL CLUB
Chan Chan

映画のオープニングで使われたコンパイ・セグンド作のナンバー。キューバの音楽というとサルサがイメージされるが、サルサの原型になったソンはリズミカルな中に哀愁が漂い、ブルースなどルーツ音楽が好きな人には馴染みやすいナンバーが多い。

四の五の言わずに RETURNES

6年経ってもう一度言わせてもらいます。

2015年11月、ワールドカップ直後の2015~16トップリーグ。前売りチケットは売り切れ、地元、遠州・磐田のヤマハスタジアムには1万人を超える観客が訪れました。私もその日、混雑を予想して試合開始1時間前に会場に向かいましたが、どこも満車でスタジアムから2kmほど離れた駐車場に誘導された事を記憶しています。

今年1月、2016~17トップリーグ最終戦。ヤマハスタジアムには5千人に満たない観客。私はその日、試合開始直前に会場に着きましたが誘導されたのはスタジアムに隣接する駐車場でした。

今年は8月に開幕する2017~18トップリーグ。ヤマハスタジアムでの初戦は9月9日です。6年ぶりに言わせてもらいますよ。

「ラグビーのルールなんて 知らなくても問題なし。とにかく一度スタジアムで生でのトップリーグの試合を見て欲しい。」

五郎丸選手も帰ってきました。清宮幸太郎選手(早実)のお父さんが監督やっています。2019年にはラグビーワールドカップが日本で開催されます。地元、遠州・袋井のエコパスタジアムでも試合が行われます。まずはトップリーグから盛り上げましょう。

…とか言いつつ、また6年後にこの誌面で「ラグビーのルールなんて知らなくても…」と書いているような気がしないでもないのですが。

近藤波平

団塊の世代以降ゆとり世代前。テクニカルライター兼社長。
大型二輪と二級船舶の免許を所有していますが、バイクと船は乗っていないし持ってもいません。

「ラグビーのルールなんて知らなくても全く問題なし。とにかく一度スタジアムで生でのトップリーグの試合を見て欲しい。」と書いたのは本誌の前身、エコノワ第5号(2011年発行)での事でした。まぁ私ごときの呼びかけで観客動員が増えるはずもなく、2011年から2014年のトップリーグはメディアにも大きく取り上げられる事もなく淡々と過ぎて行きました。2011年秋にニュージーランドで行われたワールドカップでの日本代表の戦績を即答できる人はまぁ少ないでしょう。

そして2015年9月、イングランドで行われたラグビーワールドカップです。ファルマー・スタジアムでの初戦。試合前の国歌斉唱から涙する五郎丸選手。ノーサイド直前での大逆転。南アフリカ代表に対して『ラグビーワールドカップ史上最大の番狂わせ』と称された歴史的なジャイアントキリング。決勝リーグには進めなかったが3勝1敗での戦績を記憶している人は多いことでしょう。

イラスト:ボブ・ウエダ

The EnshuSiast Magazine

次号予告 Hit the Road!
旅に出よう。

音楽情報も満載!
Shall we Dance?

The EnshuSiast Magazine 第2号は2018年春発行予定です。

エンシュージアスト
オリジナルTシャツ
& ステッカー完成!
詳しくはホームページをご覧ください。

オリジナルTシャツ
カラー:ブラック
サイズ:S,M,L
数に限りがありますので
品切れの際はご了承願います。

オリジナルステッカー
サイズ:直径70mm

EnshuSiast HomePage
http://enshusiast.com/
https://www.facebook.com/Enshusiast/

未来のエンスーたちへ

この本のテーマである「エンスージアスト」という言葉と出会ったのは、大学生の頃に読んでいた「クラブマン」というバイク雑誌。「60万円台でエンスージアストになる」という特集で「マニア」が自分のこだわりを形にするために何百万も何千万も使うという楽しみ方を、貧乏学生の私にも「ちょっと背伸びをしたら、自分でもその仲間に入れるのでは」といった淡い夢と期待を抱かせてくれたものでした。それから20数年、BANDITでの初ツーリング、KDX200SRでのオフロード耐久、DUCATI900SSで走った雨の鈴鹿サーキット、高校入学祝いで手に入れたトーカイのストラトから現在のフェンダーストラトまで様々なバイク、ギター遍歴を重ねてきましたが果たして今の私が「エンスージアスト」と名乗れるようになったかと言えば、まだまだその入口の前でジタバタしているにすぎないような状態です。ただいつも「バイク」と「音楽」の2つは常に私のそばにあり、どんな時も楽しみを提供してくれた存在でした。また幸運にも、私の周りには趣味の世界の楽しみを共有できる仲間がいて、その楽しみが今の私の原動力になっているといっても過言ではありません。最後に一言、是非この「エンシュージアスト」を読んで、あなたに感じてもらいたい。「何か打ち込めるものがあるっていいね」と。そう感じてもらえたなら、僕たちがこの本を発行する本当の想いを伝えられた瞬間だと思うのです。

テキサス大沼

エンシュージアスト編集長。20歳でバイクの免許を取り、これまでオン・オフ関わらず様々なバイクを所有。現在の愛車は1981年式のホンダXL250S。最近はMotoGPなどロードレース情報を中心に追いかけています。音楽はロックを中心にジャズ・クラシックまで幅広く聴いています。

The Big Bike Theory

取材をするとバイクが欲しくなる法則･･･っていうのがあるとか無いとか。いや、あるね、きっと。本誌の取材で新旧さまざまなバイクを見て、たまに跨がらせてもらったりするたびに、自分のバイク遍歴を思い返していました。近所のおじさんからもらったリトルホンダに始まり、MB5～Vespa50s～CB360T～XZ400～FT400～MVX250～ZL400～SEROW225～Z750D～GPZ750R～V-MAX～883～GT80～TW200～GSX-R1100～GYRO-X～Bw'ｓ125(2ST)～XLR250R～X4～Bw's125(4ST)。何とも脈絡のないラインナップですが、わりとすんなり時系列で思い出せるのは、それぞれに思い入れがあったからかな。そんなことを考えてるとつい新しい思い出を作りたくなるよね。新しいパートナーと。グラマラスなビッグバイクもいいけど、あんまりヘビーだと疲れちゃうし、かといって小柄でピーキーなのも面倒。素直な取り回しでどこへでも一緒に行けるような、それでいて個性があって…。え?あくまでもバイクの話ですとも。まあしばらくは編集部社用車のBw'sで取材でもなんでもこなしますよ。4ストエンジンになって加速感は多少落ちたものの、安定したトルクでバイパスなどの巡航もラクラク。へたっていたリアサスを変えたら持ち前の走破性も復活。あんまりお腹がすいたって言わないし、この台湾娘、なかなかの名パートナーです。

アジト石塚

エンシュージアストの遅れてきた新入社員。編集部内のマルチスイーパー。デザインはもちろん文章からカメラ、イラストまで担当。FRP加工から革、銀、粘土など素材を問わずアナログなモノづくりが趣味。より広い視野でモノづくりするために、最近アジトを浜名湖から太平洋側に移す。

煙たい戯言（ざれごと）

昔は格好いい男には煙草とバイクが似合いました。Steve McQueenしかり、松田優作しかり、次元大介しかり。現代だと逆に吸わない方が格好いい風潮で愛煙家には肩身の狭い世の中です。そんな世間に負い目を感じている善良な愛煙家の皆さんに僕はあえてパイプ喫煙を提案したい。パイプなんて面倒くさいと思うでしょ?そう面倒くさいんです。吸う度に葉を詰めなきゃいけないし、着火にもコツがあります。上手に吸わないと煙の温度が上がりすぎて喉や舌が火傷しますし、必要な道具も増えます。しかし、そんな面倒くさい物をオススメするには理由があります。第1に燃えるのは葉だけですから煙草本来の味が楽しめて美味しい。紙巻だと紙や添加物の燃える煙まで吸ってしまい雑味になります。第2にゴミは灰だけ。しかも喫煙中に灰は落ちませんから灰皿は最後しか使いません。なんてエコ!第3に長い時間楽しめる。パイプはスロー&ロングが基本。紙巻煙草みたいに5分ぐらいじゃどうせすぐ吸いたくなります。そんな急いでどうするんですか?時間をかけてゆっくりリラックスした方が効率的です。第4になんてったって吸い姿がカッコイイ! IQOSなんかよりも断然カッコイイと思いません?どう?興味湧いてきたんじゃないですか?誰にも理解されなくても、手間をかけて自己満足に浸る事ってエンシュージアストのテーマに似ていると思いませんか?愛煙家の皆さん、紙巻煙草は止めてパイプ愛煙家になりましょう。

ドン・サハラ

エンシュージアスト デザイナー&エディター。(有)キーウエストクリエイティブ所属。西アフリカのジャンベとブラジルのサンバ、そして日本のサザンオールスターズをライフワークにしている太鼓馬鹿。バイクはKAWASAKI ELIMINATOR250V。エンシュージアスト特攻隊長としてフットワークを武器に、重い体を引きづりながら西へ東へ突撃取材します。

2006年、記念すべき第一回やらまいかミュージックフェスティバルに出演したダウンタウン･ブギウギバンドのトリビュートバンド。右から二人目が筆者、一番左でピースしているのが平井さん。

平井さんという生き方

♪ 新宿･原宿･向宿、六間道路でロッケンロー!…

ふさけている場合じゃありませんよ。みなさん。遠州･浜松のポテンシャルはホントすごいんですから。

なんてったって徳川家康公が浜松城を足がかりにして、天下統一したのが400年前。家康公と一緒に西からやってきた腕のいい職人、鈴木さんは遠州で繁栄し、今や日本トップクラスの名字にまでなりました。ウワサによるとあの秋葉原も浜松町も遠州･浜松が由来だということじゃないですか。そんな土地柄だから、やらまいか気質なエンシュージアスト探しには事欠きません。ほら、あなたのすぐとなりの人ももしかしたらスゴ腕の持ち主かもしれませんよ。

私事で恐縮ですが、生まれ育ち、デザイナーとして就職までしていた武蔵の国から一方的に遠州へやってきたのが22年前。当時入社した浜松の印刷会社は東京のような華やかさはないものの、その分腕のいい職人がたくさんいました。

今まで見てきた誰よりもテッサンの上手い人、プレゼンの場にギターを持ち込み弾き語りする人、営業に至っては、ちょっと前まで鈴鹿サーキットでガチレースをしていたとか、西武球場でライブをしたことがあるとか、仮面ライダーカードを500番台まで全コンプリートしている人までいました。…この人たちスゴイ。中途半端に東京でデザイナーになり、中途半端に生きてきた自分が情けなくなりました。

そんな自分も職場にZO-3ギターを持ち込んだりしていたのですが、ある日の夜中、勝手にそれを弾いてる輩がいたのです。それが今をときめく平井さんとの出会いでした。

平井さんはフリーになったばかりのデザイナーでしたが、仕事の腕はイマイチで、上がってきた原稿にはほぼ間違いなく誤植がありました。

しかし音楽、特にブルースに対する造詣が深く、一緒にバンドを組んだりして何度か同じステージに立ったこともありました。しかし、平井さん、何年経っても誤植する癖は直らず、いつしかデザイナーを廃業してしまいました。もう10年以上前の話です。

そんな平井さんに偶然、久しぶりに再会したのが、今回「エンシュージアスト」の取材で訪れた「ビスケットタイム」というライブハウスでした。たまたま行った日が月に一度のブルースナイトで、そこのステージでノリノリで青いテレキャスターを弾いていたのが平井さんでした。

話を聞くと、今はトランポ系の中古車販売会社に勤めていて、売れたトランポに自分のバイクを積んで北海道や九州に納車しては、帰りは自分のバイクで浜松に戻るというフリーダムな日々を過ごしているとのこと。収入もなんとか食べていけるぐらいらしいのですが、以前よりもパワーアップしてイキイキしている姿が印象的でした。

さらに平井さんは「最近ピアノも始めてね。もうレディ･マドンナとか弾けちゃうに。ほら、ヤツらでも弾けるんだからオラにもできると思うじゃん」…どうやら平井さんはポール･マッカートニーには一目を置いているものの、少なくともジョン･レノンよりは俺の方がピアノの腕は上だと申しておりました。しかしなんというポジティブさ。

生きるモチベーションは人それぞれだと思いますが、まずは楽しいことを最優先にする平井さんという生き方というのも「エンシュージアスト」そのものなのだな、と思うワケです。まあ、好きが高じて仕事になれば最高なんでしょうけど、どうやらこのまま錆び付くこともなさそうな平井さんは、愛するブルースとともにいっそ燃え尽きてもらった方が幸せなのではないか、と思うのです。

山さん山川

エンシュージアスト編集発行人。(有)キーウエスト クリエイティブ代表。モーターサイクルと音楽とデザインをこよなく愛する52歳。愛車は1989年式の4速スポーツスターとホンダ シルクロード。自転車はブリヂストンのワンタッチピクニカ。ヘルメットは銀ラメのArthur Fulmer、たまにヒロタケアライ。

EnshuSiast Friendly Shops

The EnshuSiast Magazineは
下記のショップにて配布しています。

浜松市中区

印度カレー mana	053-458-1773
CUSTOM FEVER	053-455-6755
自家焙煎珈琲店 鴨江珈琲	053-401-1810
川島モータース本店	053-471-2543
川島モータース元浜店	053-478-0877
くれいじーママ	053-473-7955
ダブ・システム	053-522-9681
Sonix	053-476-6688
髪処 床上手	053-476-8677
Piste HAIR DESIGN	053-489-3336
ビストロ・ヒルマン	053-543-5000
古橋商会	053-453-5985
PLATERO	053-456-2957
PRECIOUS JUNK	053-455-5625
ホンダドリーム浜松	053-412-6330
ヤマハミュージックリテイリング浜松店	053-454-4111
ROBA NO MIMI	053-471-0022
YSP浜松	053-465-4545
遊楽民	053-571-0703

浜松市東区

art tool／アートツール	053-422-7765
アニー コーヒー	053-581-9777
オグショー	053-421-0122
オートプラザドリーム	053-411-0819
音楽天国・浜松市野店	053-462-1059
スズキワールド浜松	053-464-8198
Tickle	053-467-0160
南海部品浜松店	053-463-0111
ハーレーダビッドソン浜松	053-466-3210
b SPACE	053-422-2055
Huge Motorcycles	053-411-8334
HYOD PLUS浜松	053-465-8282
PePe Motorcycles	053-581-7685

浜松市西区

コーヒー・ブラックバード	053-486-0365
ライダースカフェはまなこ	053-596-3770

浜松市南区

カマラド・ガラージュ	053-426-2830
KUSHITANI浜松本店	053-443-1819
Green Cog	053-441-4250
GS BURGER	090-8544-5356
GiL HAIR&SHAVING	053-548-6454
MotoService EDGE	053-424-8586
Rachel	053-589-5927

浜松市北区

CLOVER13	090-4861-4459
太鼓屋JALI	053-523-2986
T-flow	053-526-0806
長坂養蜂場	053-524-1183
HORSESHOE-BEND	053-525-9985
WATTS	053-526-2261

浜松市浜北区

KUSHITANI PERFORMANCE STORE
NEOPASA浜松店

磐田市

KNOTT'S BERRY FARM	0538-35-7003

袋井市

koti by Luomu	0538-48-5522
JUNK MASTER	0538-84-7996

湖西市

杉浦タイヤ商会	053-594-1728

※上記フレンドリーショップのほか、谷島屋書店・県西部各店、浜松駅構内・観光インフォメーションセンターでも配布しています。

Roland

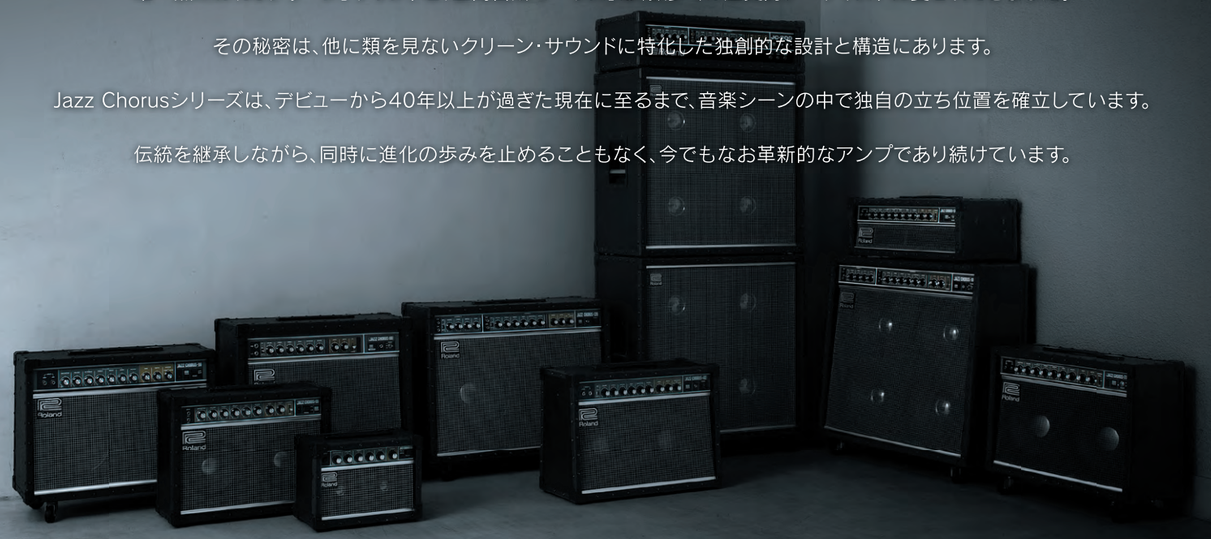
1975年に誕生したJC Jazz Chorusシリーズ。

唯一無二の「JCクリーン」サウンドと「空間合成コーラス」は、数多くの歴史的アーティストに愛されてきました。

その秘密は、他に類を見ないクリーン・サウンドに特化した独創的な設計と構造にあります。

Jazz Chorusシリーズは、デビューから40年以上が過ぎた現在に至るまで、音楽シーンの中で独自の立ち位置を確立しています。

伝統を継承しながら、同時に進化の歩みを止めることもなく、今でもなお革新的なアンプであり続けています。



伝統を磨き上げ、さらに進化。JAZZ CHORUSは次世代へ。

JAZZ CHORUS
JC-120 オープン価格

■伝統の「JCクリーン」トーンを響かせる歴史的ギター・アンプ■ツイン・アンプ／スピーカーが生み出す美しい「空間合成コーラス」搭載■汎用性に優れたステレオ対応のエフェクト・ループ■40年間の信頼を得た、耐久性に優れた堅牢なデザイン

JAZZ CHORUS
JC-40 オープン価格

■コンパクトで使いやすい40W（20W＋20W）モデル■世界でただひとつの象徴的なサウンド"JCクリーン"■ギター・アンプでは類を見ないステレオ入力仕様■空間合成コーラスをはじめ4種類のエフェクトを搭載■普遍的なデザインと堅牢設計

JAZZ CHORUS
JC-22 オープン価格

■伝統のサウンド「JCクリーン」をマイルーム・サイズの30Wアンプに凝縮■空間系エフェクトやマルチ・エフェクトとの組み合わせに最適なフロント・パネルのステレオ・インプット■JCシリーズ独自の空間合成コーラス■普遍的なデザインと堅牢設計

www.roland.com/jp

ウラハマ外伝 喫茶ゆるはま vol.3

文：ドン・サハラ
絵：ボブ・ウエダ

浜松市内の一角にある、知る人ぞ知る隠れ喫茶「喫茶ゆるはま」には、昭和の時代から遠州の喫茶文化を見続けてきた名物マスターと地元を愛する常連客ドンさんが、遠州の喫茶文化について毎日雑談しています。

常連客ドンさん
「喫茶ゆるはま」の常連客。喫茶店が大好きで、遠州地域の喫茶店に足しげく通い、マスターに話を聞いてもらいにくる変わり者。

マスター
昭和の高度成長期から浜松市で「喫茶ゆるはま」を営んでいる名物マスター。遠州地域の喫茶文化に造詣が深い。寡黙だが人の話を聞くのが上手。

青春を思い起こす珈琲とオイルの匂い

ヴォーンヴォンヴォン
カランコロン：
マスター（以下マ）：ドンさん珍しいねクかい？
ドンさん（以下ド）：そうなんだよ、若い頃よく通ってたライダースカフェに行ったもんだから、当時を思い出しちゃって久しぶりに走りに行ってきた帰りだよ。
マ：昔からやってるライダースカフェってくれいじーママかい？
ド：マスター、流石だね～。正解！で今も営業しているくれいじーママしか思い浮かばないよ。もう40年ぐらい営業してるんじゃないかな。
ド：俺がよく通ってた頃はバイクブーム全盛期でね。猫も杓子もバイクに乗って喫茶店で夜通し仲間と遊ぶのがナウかったんだよ。見知らぬ客同士、バイクを通じて友達になっちゃったりしてね。
マ：お客さん同士が友達になるのはライダースカフェならではだよね。バイクって見知らぬ人同士の共通の話題にはもってこいのアイテムだからね。
ド：今でもその頃の仲間は年賀状のやりとりしてるな～。そうそう、くれいじーママのママに聞いたさ、当時は喫茶店同士んだけどさ、でも色々仲間意識があったみたいじゃん？
マ：80年代はバイクもだけど、喫茶店も全盛期でね。来てくれるお客さんの数が凄かったんだよ。それでお店に入りきらないお客さんには申し訳ないから、他のお店に電話して空いてるかどうか聞いて、そっちに行ってもらったりしてね、アルバイトの貸し借りとかもしてたなー。
ド：今じゃ考えられないよな～。なんか人間くさくていいね。
マ：昔からの日本人の気質、お隣さんにお醤油を貸してもらうのと同じだよね。持ちつ持たれつでうまくやってたんだよ。
ド：その気質は遠州の喫茶文化の1つだな。そうそう、久しぶりにくれいじーママのマスターにも会えたんだけどさ、相変わらずバイク好きで当時と全然変わってなかったよ。
マ：マスターがバイク好きだから、自然とライダーが集まって、恋人や仲間が集まって、さらに、そこで新しい仲間が出来ていく、人と人が繋がる社交場が喫茶店の在り方の1つだからね。基本一人か二人しか乗れないバイクが喫茶店を通じて沢山の人を繋げるって面白いよね。
ド：その頃、高校生くらいだったお客さんが、今じゃ50代になって遊びに来る常連さんも多いらしいよ。
マ：チェーン店が多くて、システマチックな今の時代だからこそ、アナログで緩くて人間味があるお店に通いたくなるんだろうね。ドンさんもそうだろ？
ド：よく分かってるね～マスター。そうなんだよ。ただ珈琲が飲めればいいわけじゃなくて、お店の雰囲気が心地いいから喫茶店に通うんだよ、珈琲を飲むだけなら家で飲めばいいんだからね。
マ：くれいじーママの雰囲気はバイク好きにとって居心地良さそうだよね。
ド：ところがバイクだけじゃなくてさ、ママの作る料理も手作りにこだわってて、優しさを感じるんだよな。なんか元気もらうんだよな～。
マ：何回か僕もバイクに乗ってくれいじーママに行った事あるけど確かに、ボリュームがあって、健康に気をつけて付け合わせの野菜も多かったりして、ママの母性愛的な優しさを感じたよ。
ド：あれ？マスターってバイク乗ってたっけ？
マ：言ってなかったっけ？古いイギリス車だけど今でも現役で乗ってるよ。お店が休みの時は大概美味しい物を求めてツーリングで出かけてるよ。
ド：マスターとも長い付き合いなのに知らなかった・・・そうだ！今度の休みに一緒に走り行こうよ！
マ：いいけど、ドンさんの愛車ってDAXでしょ。排気量が違い過ぎて、ドンさん大変だよ。

くれいじーママ
浜松市中区和合町 220-955
TEL:053-473-7955

SUZUKI

さあ、踏み出そう

V-Strom 250

「街中を走るときの弾む心」「ワインディングでの胸の高鳴り」
「アドベンチャーツアラーとしての充足感」
スズキ独自のフォルムを継承した、
スポーツアドベンチャーツアラー、Vストローム250。
Vストロームの名に恥じないこだわりを追求し、
あなたの冒険心を解き放つ。

パールネブラーブラック / ソリッドダズリンクールイエロー(BJE)

ダイヤモンドレッドメタリック(YYW)

パールネブラーブラック(4CX)

V-Strom250 メーカー希望小売価格(消費税8%込み) ¥570,240(消費税抜き¥528,000)

■メーカー希望小売価格には、保険料・税金(消費税を除く)・登録などに伴う諸費用は含まれておりません。 ■メーカー希望小売価格は参考価格です。販売価格は各販売店が独自に定めていますので、詳しくは販売店にお問い合わせ下さい。 ■メーカー希望小売価格は消費税8%にもとづく価格です。
■車体色は印刷のため、実物とは異なる場合があります。 ■仕様および装備は予告なく変更する場合があります。 ■掲載写真には、合成または特別に許可を得て撮影したものが含まれます。 ■製造事業者:常州豪爵鈴木摩托車有限公司 ■製造国:中国 ■輸入事業者:スズキ株式会社

V-Strom 250
ツーリング サポートキャンペーン
期間中、V-Strom250の新車をご成約と同時に、3ラゲッジシステムもご注文のお客様対象!

キャンペーン期間
2017 7/6(木)
11/30(木)

3ラゲッジシステム(純正用品) 30%OFF!!
キャンペーン実施店、詳細はスズキホームページをご覧ください。http://www.suzuki.co.jp/

一般社団法人 自動車公正取引協議会・会員

SUZUKI スズキバイクショップ
ホームページで販売店をご確認ください。

2年保証
スズキの二輪新車(競技用車輌・電動アシスト自転車は除く)には、2年保証が適用されます。

スズキでは廃棄二輪車のリサイクルを推進しています。※リサイクルマークがついていない車両であっても、廃棄時にリサイクル料金のご負担はありません。※廃棄二輪取扱店に車両をお持込の場合、収集・運搬費用が別途必要となります。詳しくは、廃棄二輪取扱店にお問合せください。

お問い合わせ、ご相談はお近くのスズキ販売店、または下記お客様相談室まで。
スズキ株式会社 お客様相談室 0120-402-253 受付時間 9:00~12:00 13:00~17:00
○弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、スズキ株式会社ホームページにて掲載しておりますのでご覧ください。http://www.suzuki.co.jp

EnshuSiast

The EnshuSiast Magazine/Vol.1　2017年8月25日発行
発行｜有限会社キーウエストクリエイティブ　〒430-0928　静岡県浜松市中区板屋町 101-22小川ビル 3F-5　エンシュージアスト編集部

本誌に記載されている記事、写真等の無断掲載、複写、転載を禁じます。
Printed in Japan @ Keywest Creative Ltd.